

なければならぬ。内さへ丈夫であれば如何なる壓迫が来ても大丈夫であるが、波蘭のやうな蟲が喰つて居る樹は、嵐が来ると直ぐ倒れてしまふ。さう云ふ原因で、滅びてしまつた。其無くなり掛けた時に波蘭の一部に愛國者現れて、議事法の中滿場一致と云ふやうな規則はいかぬから多數決にすると言ふ事や、其他種々なる改革をやつて中産階級を助長する方法を講じたけれども、時既に晚し。國民の中に露西亞黨が出来て、國が遂に滅びてしまつた。ナポレオンが出て歐羅巴を蕭捲した時千八百七七年に普魯西が第一回の分割に取つた處へワルソー公國と云ふものを興して、自分の味方のサクソニヤの王をワルソー公として此處を治めさせて置いた。一寸獨立國が出来たやうに見えるが、是は矢張りナポレオンの屬國であつて、波蘭の再興とは言はれない。ナポレオンが千八百十二年に露西亞遠征に失敗してから、勿論此國は直ぐ滅びてしまつた。ナポレオンが滅びて、千八百十六年にウィーン會議で歐羅巴の處分を決める時に、波蘭はどうするかと云ふことが問題になつた。其時には迄ナポレオンを敵として居た聯合國が二派に分れて、戦争をしやうと云ふ勢ひになつたけれども、巧く調停が付いて大部分露西亞が取ることになつた。斯う云ふ風に今回の大戦前迄露獨塊三箇國で分けて持つて居た。

(三四) 十九世紀に於ける波蘭獨立運動の失敗

さうして波蘭王國と云ふものがウィーン會議で出来たけれども是は民族的獨立が出来たのではなく露西亞の屬國とも稱すべきものである。ロマノフ帝室のコンスタンチンと云ふ人が國王になつたのであるから、是は民族的獨立でない。露西亞の屬國である。露西亞は此處に憲法政治を布いて、頗る民権を重んずるやうになつたけれども、波蘭人はそれで満足しない。屬國では面白くないから獨立したいと考へて居た。それだから西歐羅巴の方に革命が起ると、直ぐ波蘭が叛亂を起して獨立を恢復しやうとする、度々それをやる。殊に千八百三十年の佛蘭西の七月革命後の争亂の如きは、勢ひが盛んで一時露西亞も手を焼いたが、後に大兵を出して抑へ付けてしまつた。其後も度々叛亂を起したけれども成功しない。失敗する度毎に與へられた自治權を奪はれて、後には純粹の露領になつてしまつた。さうして露西亞の政府は波蘭を露西亞化することに非常に骨を折つた。學校を建てても波蘭語を教へないで露西亞語を強制的に課する、民法商法其他一切の法律は總て露西亞の法律を適用することにして、少しも假借しないと云ふ風になつた。そこで波蘭は露西亞を非常に憎んで、日露戦争の時にも露西亞の爲に滿洲迄出掛けて血を流すのは詰らぬと云つて應じなかつた。自分達が憎んで居る露西亞の爲に滿洲迄出掛けて血を流すのは詰らぬと云つて應じなかつた。仕方が無いから引摺り出して伴れて行くと、滿洲へ行つても忠實に戦争をしない。或る波蘭人の書いた日記を見ると、吾々は露西亞

に對して恨みがある。日本人に何の恨みも無い。吾々が放つ鐵砲は日本人を殺す爲めではない。已むを得ず放つたのだから天に向つて撃つたと云ふやうなことが書いてあつた。それから獨逸領になつた。ポーゼンの地方はどうかと云ふと、此處も同様獨逸化することに努めた。獨逸語を強制的に教へると云ふやうなことをやつたが、中に波蘭人は獨逸化しにくいものだから、或時などは一遍に澤山の波蘭人を逐ひ出して、其跡へ獨逸人を移住させた。さう云ふ手段迄採つて此地方を獨逸化させることに努めて居つたが、それが成功しない中に今度の戦争が起つた。さうして此地方も共に獨立したのである。それから埃太利領になつた南の方、此處が一番波蘭人の比較的樂天地であつた。と云ふのは千八百六十一年からガリシヤ地方の波蘭人に對しては自治權を與へた。さうして學校教育なども決して壓迫しない。それだから波蘭語で教へる大學がある。其下の小中學校でも波蘭語の學校がある。故に波蘭風を一番く保存したのはガリシヤの西部である。さうして將來波蘭が獨立恢復しやうと云ふことは始終波蘭人の忘れない所であつた。さうして初はワルソーが獨立運動の中心地であつた。所が千八百三十年の叛亂後、露西亞が非常に警戒を嚴にした爲に、獨立運動の中心地を埃領のクラカウ市に移したが、此處からも埃太利が逐ひ出したので、今度は西歐羅巴の方へ行つて、白耳義のブラツセル瑞西のジュネーブ邊に秘密結社の中心を設けて、各地方に支部を置き、殊に亞米利加へ澤山波蘭人が

行つて居るので、亞米利加でも盛んに運動して居つたのである。

(三五) 大戦勃發後の波蘭

所が今度の戦争が始まつたので、波蘭人の向背が難かしい問題になつた。と云ふのは波蘭はチエツコスロヴァツクの様には往かぬ。國が三部に分れて居て、大部分は露西亞の支配の下に呻吟して居るから、露領の者は露西亞に敵意を持つて居る。又獨逸領に居る波蘭人は獨逸に敵意を持つて居る。埃太利の方に居る者は、自治を與へられて居たゞけ割合に敵意が薄い。それ等が入亂れて戦争することになつたのであるから、波蘭人全體としては何方へ附くかと云ふことが非常に難かしい。例へば露西亞を棄て、獨逸側に附いたと假定すると、獨逸側では奇特の至りと云ふので自治權位は與へるだらうけれども、獨立は望まれない。それなら露西亞に附いたかどうかと云ふに、假に聯合國が勝つたとしても、是迄の關係上矢張り獨立は望まれない。實に波蘭の向背は難問題であつた。所が都合の好いことには獨逸側が敗れて、露西亞は革命で崩れて仕舞ひ、何方も壓迫する者が無くなつた斯う云ふことは望んでも中々出来るものではない。誠に千載一遇の好機が來たのである。佛者の所謂盲龜の浮木に會ふたやうなものである。波蘭人は此好機會に於て獨立を遂げた此獨立に於て非常に功勞の有

る人を挙げれば、先づジョセフ・ピルス・ズスキーであつて、此人は今大統領になつて居る。此人の生涯は中々變化に富んで居る。早くから社會主義の獨立波蘭國を建てると云ふのが其主義である。それが爲め露西亞政府から危険人物視され捕へられて八年の刑期を以て西伯利へ流されて居つた。其刑期が満ちて復び波蘭へ歸り、矢張り社會主義の獨立國家を建てると云ふ目的で、武力革命主義の首領となつた。露西亞の警察官が始終尾行して居る。或時捉まり狂人の眞似をして警察官を欺いた。そこで風癪病院へ打込まれた。其病院から逃げ出して英吉利へ亡命して居つたが、今度の戦争が始まつてから復た歸つて來た。さうして活動し始めたのである。

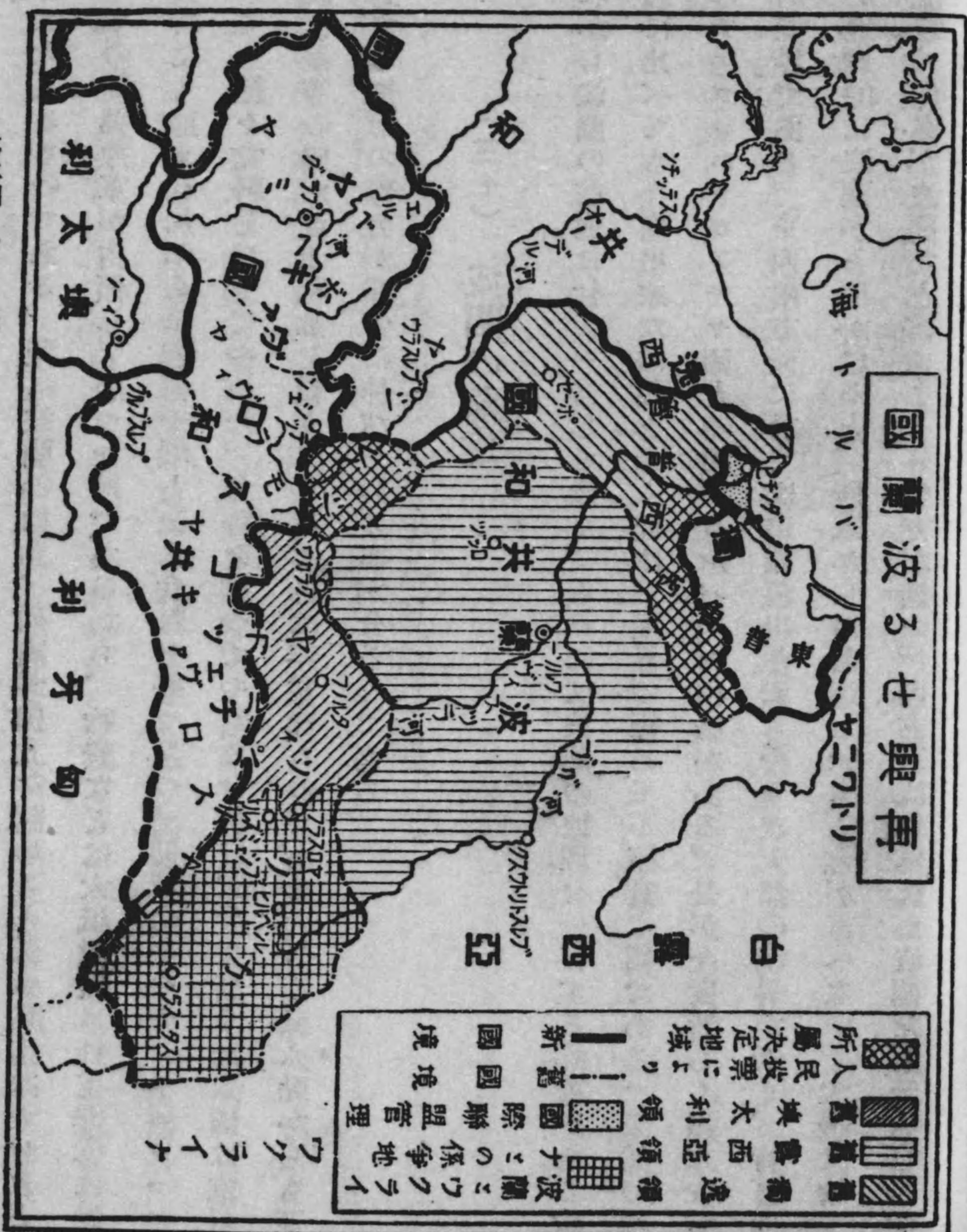
さて波蘭方面に於ける大戦の經過を見ると、開戦の翌年即ち千九百十六年の十一月五日に、愈々波蘭國を獨立させると云ふことを獨逸側で宣言して居る一體波蘭の獨立は豫て波蘭人の希望して居る所であるから、此獨立の宣言は彼等は非常に喜ぶべき筈である。所が彼等は之を喜ばなかつた。彼のピルスズスキーは中々活動家で人に知られて居るので、獨逸側では此人を利用して波蘭軍隊を編成して獨逸側の爲に盡力させやうと思つて、其事を獨逸側から頼んで來たが、ピルスズスキーは考ふる所があつてそれに應じなかつた。それは獨逸側の爲に骨を折つた所が、波蘭の眞の獨立は難かしいと見て居たのである。獨逸が獨立を宣言した目的は、之に依つて波蘭人を喜ばせて、波蘭地方から物質を徴

發し、又波蘭軍隊を味方として働かせやうと云ふのが獨立宣言の目的である。波蘭人はそれを知つて居るから一向に喜ばない。別に眞の獨立を計りたい。それにては獨逸を頼りにして居ては可かぬと云ふので、ピルスズスキーは斷然獨逸の需めに應じなかつた。そこで是は怪しいと見たものだから直ぐにピルスズスキーを縛つて、獨逸へ護送して牢屋へ入れてしまつた。さうして休戦になる少し前迄禁錮して居つた。それ迄の間にも波蘭内でも獨立運動が起つて、自ら政府を組織する者が幾らも出來たけれども、どうも統一がつかないでゴタ／＼して居つたのである。波蘭の獨立が決まつた形を取つて稍々統一的に行はれるやうになつたのは千九百十七年以後である。其年の一月の下旬に亞米利加大統領のウイムソンが演説をした中に、波蘭の獨立自由と云ふことは非常に望ましいことであると云ふ獨立賛成の演説をした。是が爲に波蘭人の意を非常に強くし決心を固くして、其演説の電報が來ると、ワルソの亞米利加領事館の前へ人民が群集して、感謝の意を表した。さうしてウイムソンが民族自決主義を標榜したので、波蘭人は益々乘氣になつて獨立運動に熱中することになつた。亞米利加は前に徵兵令を布いたけれども參戰の初めはまだ募集制度の軍隊であつた。其時分に波蘭人で進んで亞米利加軍隊へ入る者が非常に多かつた。又歐羅巴の戦線では別に波蘭軍を編成して聯合軍と肩を並べて働いて居た。そこで各國が波蘭の獨立を承認する前に先づ波蘭軍の獨立を承認して聯合軍と認めると

云ふことになつた。さう云ふ次第で波蘭は戦争中から、聯合國の同情を惹いて居たから媾和會議が開かれてから、列國の承認を得て百二十五年目に恢復することになつた。

(三六) 波蘭の再興と米國

それでチエツコスロヴァキヤの場合に於ても波蘭の場合に於ても、亞米利加が其獨立に同情し、有形無形に援助を與へたと云ふことが、非常に關係が有るのである。是等の獨立を希望せる人民が亞米利加で演説したのを讀んで見ると、總てが亞米利加に迎合するやうになつて居る。亞米利加の方が政治はデモクラシーでやらなければならぬと云ふので、彼等もデモクラシーでなければいかぬやうに言つて居る。是は必しも迎合するばかりが目的とは言はれない。實際に彼等が建てた國は何處も共和國である。と云ふのは、是迄彼等が憎んで居た國は、何れも君主國で、專制的な國であつた。獨逸にしても露西亞にしても、立憲政治ではあるが、非常に君權の強い國で、それを憎むから、吾々が建てる國は君主國では可かぬ。共和政治でなければ可かぬと云ふのも一つの理由であらうが、一面に於て亞米利加の歡心を買ふことに急であることは、争はれない事實である。ウイルソンが民族自決主義を唱へたと云ふことは、彼等の獨立の爲に極めて都合が好いのみならず、亞米利加から物資の供給を受け



たことは大なるものである。現に波蘭の如き、列國が獨立を認めると云ふ所迄來たけれども、何分にも四年半の間獨逸軍が占領して居つた跡であるから、物資などは大抵徵發されて非常に缺乏して居つた。其時にも亞米利加から早速何千噸と云ふ食料を船で送つて助けてやつた。チエツコスロヴァキヤに對しても續々食料を送つてやつた。食料を送つてやらなければ、逆も斯う云ふ國は立行かぬのである。故に是等の國が亞米利加を頼りにすることは非常なものである。さう云ふ點からも亞米利加の歐洲に對する無形の勢力が非常に伸びて居る事が分るのである。

(三七) 波蘭の前途

それから波蘭の前途に付て一言して置く。それには波蘭の地理を一言する必要がある歐羅巴の何處の強國に比べても今度出來た波蘭と云ふ國は、境界の極めて不確實な國である。天然の境界としては南方のチエツコスロヴァキヤ國との境にカルパチヤ山脈がある。是が今度新しく出來た波蘭の唯一の天然の境界である。東西兩方面に於ては山脈河川と云ふやうな天然の境界が無く、皆打開いて居る。何處が地理的に波蘭かと聞かれると、何處から何處迄と云ふことが言へない。大體に於てゲイスマラ河の流域、此處が波蘭だと言ふより外仕方が無い。西と東は何處迄が波蘭だと云ふ自然的の境界が無

い。是は波蘭として非常な弱點である。無論露國の方面からも自由に此方へ入つて來ることが出来る。獨逸の方からも入つて來ることが出来る。此の方は海が境になつて居るから宜しいが、東と西とが打開いて居る爲に、此海岸地方などは他民族の交通要路になり易い。十三世紀頃獨逸の武士團が此海岸地方を通過してリトワニヤの異教徒を攻めに行つた時、通りながら此處を占領して波蘭は海を持たぬ國になつてしまつた。それ迄はダンチツヒの港を持つて、海上の交通で商賣をして居つたが、是から獨逸が海岸一帯を占領して仕舞つたから内地國になつてしまつた。さう云ふ風で東西の境界が判然して居ないことは、國防上一大缺點である。

(三八) 再興即下に於ける四面の敵

それに周圍の關係が甚だ面白くないと云ふのは、波蘭の獨立が承認せられたと同時に、波蘭は四面に敵を持つた。日本では休戰條約が出來たと同時に、新聞などに平和の新年が來たと書いてあつた。平和どころではない。歐羅巴の状況を見ると、十箇處も二十箇處も戰爭をやつて居る。波蘭なども獨立は承認されたけれども、四面で戰爭をして居る。一つはガリシヤの東の方、此處は前に申したブレストリトウスタ條約でウクライナに與へられた地方であるが、是は昔波蘭が持つて居た處で、波蘭人

は無論此處は波蘭の方へ取る積りであつたのがブレストリウスク條約でウクライナに與へられた。所がブレストリウスク條約と云ふものは、今度の巴里會議に於て認めない。そこで波蘭の方では之を取らうとして居る。ウクライナは武力を以て取らうと云ふのでレムベルヒの町とプシエミスルを軍隊で圍んで居る。此町には波蘭人が居る。それが非常に苦戦して居た。そこで巴里の會議から委員を派遣してウクライナに對して休戦を命じたけれども、中々言ふことを肯かなかつたが、トウ／＼抑へ付けて休戦させた。それから元獨逸が持つて居たポーゼン地方も、列國が認めて新興波蘭に遣ると云ふことになつた爲に、獨逸人が所々で叛亂を起して波蘭人に反抗した。之に對しても巴里の媾和會議から休戦の命令を下して居る。それからもう一つはクラカウの北方にテツシエンと云ふ處がある。チエツコスロヴァキヤと波蘭との境になつて居る處でチエツヒと波蘭と戦争をやつて居る。是は此地方に石炭が豊富で、其處を持つと持たぬとは、今後の工業の進歩發展に大關係が有るからである。又一方では露西亞の過激派を東の方で防がなければならぬから、此處でも戦争をやつて居る。さう云ふ困難な地位に陥つて居る。

(三九) 波蘭内人種の混雜

それともう一つ困ることは前に述べた通り、西からも東からも自由に入れる所であるから、人種が非常に入れ混りになつて居る。西の地方は獨逸が半を占めて居り、國の眞中迄獨逸人の居ない處は無い。人口密度は波蘭の方が多けれども、何處にでも獨逸人が入り込んで居る。さう云ふ譯であるから、今後波蘭と云ふ國は中々面倒である。戦前には獨逸の領地が東の端東普魯西まで續いて居たのが、波蘭領が間へ入つて、東普魯西が西方に獨逸の本部と打切られてしまつた。然し獨逸本部と東普魯西との交通を自由にするとは、對獨條約の中にも規定されて居る。此點に關しても餘程面倒が起るだらうと思ふ。要するに波蘭の前途は非常に多事である。さうして國防上には大なる缺點が有るのであるから、チエツコスロヴァキヤに比べて前途餘程困難だらうと考へる。

(四〇) 歐洲改造と古來の民族的精神

要するに今述べたことに依つて歐羅巴の地圖が塗り變へられるやうになる上に、昔から傳つて來た民族的精神と云ふものが非常に働いて居る。今日も現に働きつゝある。今後も働くに相違ないと云ふことを、事實に就て私は多少證明し得たやうに思ふ。四海同胞と云ふ理想は誠に結構である。けれども、斯の如き事例が眼前に横はつて居る以上は、吾々日本國民も世界は斯の如きものであると覺悟し

て、總ての事をやつて往かなければならぬと考へるのである。若し此一點に諸君が御賛成下さるならば、私の希望は十分に充されるのである。もう少し澤山の事例を提供したならば、尙一層諸君の御賛成を得るかも知れぬけれども、限り有る時間に於て多少證明し得たかの如く感ずるのである。近頃危険思想だとか何だとか思想問題が非常に喧しいけれども、歴史と云ふ者を克く頭の中に入れて、過去の力が現在に働きつゝあると云ふ事に付て、確信さへ持つて居れば、所謂危険思想など、云ふことも左程恐るべきものではないと考へるのである。歴史を無視すると云ふことが好い事であれば、光輝ある我が帝國の歴史も同時に放棄してしまふが宜い。左もない限りは所謂危険思想などと云ふことも、左程恐るべきものでないと私は考へて居るのである。(文責在編者)

偏見を去つて世界を正視せよ

文學博士 村川堅固 述要旨

(一)

前古未曾有の大戦亂によつて激變せる世界の形勢は、戦後三年半を経た今日に至つても、まだ混沌

不安定の情態に在る。従つて其形勢に對する判断も、觀察者の地位、經歷、知識、職業等の如何によつて區々一ならぬのであるが、其判断の正鵠を得ると否とは、大にしては人類の禍福、國家の盛衰。小にしては、個人の立身處世上に大關係を有するのである。故に日本が今の混沌たる世界に處して、確乎不動の國是を立て、其向ふ所を誤らざるが爲めには、吾國民も深く世界の形勢を察し正當なる判断を下すことが必要である。

然しながら世界の形勢が複雑であり、不安定であるだけに其真相を捕捉し正當の判断を下すことは然く容易でない。それがために動もすれば各人の所見が一方に偏し、其所論公正を失するの結果を來すこととなり易い。而して其偏見が勢力を得て國民を誤まることとなれば其影響の恐るべきことは言はずして明かである。是れ予が偏見を去つて世界を正視せよと叫ぶ所以である。

(二)

方今「世界の大勢に順應せよ」といふ聲が大である。大勢順應は私も大に賛成する所である。世界を正視せよといふのは則ち世界を正視して大勢に順應せよといふ意味に外ならないのである。然しながら世間の謂はゆる大勢なる者が果して世界を正視して得たる大勢なるか、或は偏見に基づいて大勢と認められたものではないか、予輩頗る疑なきを得ないのである。或はいふ、世界の大勢はデモクラシ

1 (Democracy) である。或はいふ、軍備縮小は世界の大勢であると。なる程それ等も世界形勢の一面である。然しそれを以て直に世界の大勢となす事はどうかであらうか。なる程それ等も世界形勢の一面である。然し、それを以て直に世界の大勢となす事はどうかであらうか。

(三)

抑も大勢とは何であるか。予輩の解する所では、それは少くとも數年乃至其十年間世界の文明國を支配する一大傾向でなくてはならぬ。若し半年乃至一二年間にして方向を轉換するやうなことであればそれは大勢と稱するには足りない。一時的流行を以て大勢と誤認し、之を趁ふことを以て大勢順應となすならば大勢順應は畢竟不可能とならう。何とならば、順應のためには準備の期間が必要であるが其準備の未だ成らざる間に所謂大勢は既に變化して丁うであらうからである。然るに今の大勢を論ずるものは、果して予輩の觀て大勢と爲すものを捕捉するの用意を以てするのであらうか。果して一時的現象に捉はれて公正の判断を誤つて居ることが無いであらうか。

(四)

現下の世界の大勢を論ぜんとすれば、少くとも大戰末期より現今に至る過去四ヶ年の世界の趨勢を觀察せねばならぬ。大戰末期に方り、米國が盛に軍隊と物資とを以て聯合國を助け、其窮厄を援ふや

うになつてから、米國大統領ウイルソンの理想主義的言説は歐洲を首め世界の各方面に偉大なる反響を來したのであつて、彼の提唱せしデモクラシー主義は世界を風靡するの概があつた。而して歐洲に於て專制政治を代表せし露獨の兩帝室が前後に仆れ、大戰は獨逸の敗殘を以て終局することゝなつたのでウイルソンの理想は茲に實現せんとする觀を呈した。米國の參戰と其後の同國の努力とを徳とせる歐洲諸國は何れも米國の歡心を求め之に迎合するに惟日も足らない有様であつた。其頃我國に於ても一派の論者はウイルソンの理想が戰後に於て直に實現せらるゝものゝ様に考へ世界は大戰を一回轉機として生れ替つた如くになり國際聯盟の力は能く世界の平和を維持するに足るものゝ様に説き平和の希求は人類全般に通ずる改造の努力を産み出すべく、此大勢に逆行する國民に孤立無援の状態に陥り、人類進歩の落伍者となり、遂に滅亡の淵に沈むべき運命に到達するの外ないと説くのであつた。

なる程大戰後の世界が戰前のそれに比して激變を見るべきことは當然であつて予輩も亦之を期待したのである。然しながら、大戰の由來する所が過去幾十年百年の歴史的關係であれば戰爭を惹起する力はやがて戰後の世界にも影響しない譯には往かない。換言すれば戰後の世界も矢張り戰前の世界の延長であり繼續である以上、世界が大戰によりて過去と絶縁することは到底有り得ない事である。既

に過去——戦前の延長繼續である以上、世界の戦前及び戦時を支配せる或者が、戦後の世界にも残らないわけには往かない。予輩はかゝる見地から一派論者の説に首肯することはできなかつた。或人は予輩の世界観を以て過去に囚はれ、前途展望の能力を缺ける者として嘲つた。けれども予輩は一派論者のユートピア (Utopia) 的期待が事實によつて裏切らるべきことを確信しつゝ、冷静に世界事象の發展を眺めてゐた。

(五)

幸か不幸か、戦後一年又二年、世界の形勢は一向に彼等一派人士の期待に副はなかつた。歐洲諸國民は大戦の爲に非常の慘禍を嘗め、困難のどん底に陥つたにも拘はらず戦争の原因を絶滅する爲に全力を傾注しないのみか、戦争中に挑發せられたる民族的反目嫉視は、戦後に至つて却つて益々其勢を増すのであつた。フィウメ及びアドリア海權に關するイタリアとユーゴスラヴィヤ間の危険、再興せるポーランドとウクライナとの關係、ポーランドと勞農露國との戦争、ポーランドとリトワニヤとの軋轢、小協商國と匈牙利との反目、イギリスに對する愛蘭の獨立運動、近來に於ける土耳其と希臘との戦争、是等は一として戦後に於ける民族的反感の熾烈なるを證明する所以ならざるはなく、特に上シレシヤ (Silesia) 問題に關して醸された大危機は第二の歐洲大戦勃發の虞ありとさへ考へら

れたのであつた。次から次へと續いて起る是等の險惡な歐洲の事象に對してさきに世界の再誕を夢みたる。又世界を生れかはらしめ得べしと信じ又生れかはらせるべく改造の必要を叫んだ一部の人士は何と考へたのであらうか。此際彼等の四海同胞の聲は一時鳴を静めざるを得なくなつた。即ち彼等が大戦末期以來世界の氣勢と認めたるものは實は眞の氣勢ではなく一派平和主義者の腦裡に描ける幻影に過ぎなかつたやうに思はれたのである。

(六)

然るに、米國大統領ハーディング (Harding) が華府會議を開催し、海軍制限を提唱し、列國の贊同を得て制限條約を成立せしめ、別に四國條約を以て太平洋の平和を確保せんとするに及んで、一時沈黙せる平和主義者は茲に再び勢を回復し、海軍制限條約の成れるを機とし、陸軍縮小も亦之を行はざるべからずと唱へ是則ち世界の氣勢なり、順應せざるべからずと説くに至つた。なる程陸軍の縮小は華府會議の議題とはならなかつたに拘はらず、米國も英國も自發的に其縮小を圖つて居るし、佛國は獨逸の復讐を恐るゝ所から之を敢てしないがそれでも兵役年限は既に之を短縮したのであるからは現下の世界大勢の一面であると謂ふことが出來よう。然しそれはどこまでも大勢の一面である。總てでは無い事を忘れてはならぬ。

(七)

然らば世界の大勢の總てとは如何なるものであるか。或論者は各國家民族の協調融和の精神を以て直に世界の大勢であるといふ。なる程世界大戰の瘡痕に惱める諸民族の間に再びかゝる戦役の慘禍を見ない爲に協調融和の希望が燃えて居ることは事實である。併しそれと同時に數百年來歴史的に養はれた民族精神それから起る民族的反感が最近の大戦を経ても尙根強く存在して居て戦後に於て益々顯著にそれが發露して居ることは上述の如くである。最近のゼノア會議の經過は最も雄辯に之を物語るものではないか、露獨の條約は將來歐洲が二分して相對峙せんとする勢を示して居る。世界人類を打つて一團となし其間一二野心國の暴動をなす餘地なからしめんとする國際聯盟の理想が實現するのは前途尙遠である。かゝる情勢を以てしても尙一派人士の説く所の如く、民族の協調融和主義即ち世界の大勢也と謂ふを得るであらうか。若しさう強辯するものがあるならば予輩は之を目して眼前の事實に眼を閉ざして空想に耽る徒となすに躊躇しない。

(八)

民族間に於ける協調融和の精神を認めながら、一方に民族反感の熾烈を説くのは一見バラドックスのやうに見える。けれどもこれは兩つながら事實であつて之を疑ふ餘地がない。して見れば此矛盾背

馳する兩大事實の併立こそ即ち世界の大勢と謂はねばならぬ。此兩精神の一方が他に比して著しく力強いといふことが言へるなら其力強きものを指して世界の大勢也となすも妨ないが、どちらが力強きものと謂ふことは容易に斷じ難いのである強ひて一方を以て力強きものとなし之を世界の大勢なりと斷ずるのは偏見である。偏見の由て起る所以は時々勃發する表面の事相を捉へて直に之を世界の大勢となすが爲である。矛盾背馳する二個の大潮流の潜在が眞の世界の大勢であつて或時は一方の潮流が表面に現はれて、顯著なる事件を起し、或時間の後にはそれが底に潜んで他方の潮流が反對の事件を産み出す。最近數年間の事件は此二種の事實の交互に現はれたものである。偏見者は唯々一方の事實のみを觀て他を顧みない。彼等は常に新奇なる眼前の事相を以て直に大勢となすのである。かくの如き偏見に基づいて國是を定め、國防計畫を立て、教育の大方針を決せんとすることの誤れることは言はずして明らかである。

(九)

協調融和の精神の具體的表現として華府會議に於ける海軍制限や四國條約を擧ぐることは決して不適當ではない。一派の論者をして言はしむれば米國々務卿ヒューズが會議の劈頭、公開の席上に放言した海軍制限案は青天の霹靂の如く世界を驚かしたものであつて其後主戦艦の比率問題等で多少の經

緯はあつたけれども世界第一の大海軍國となり得る、又現にならんとしつゝあつた米國がかゝる偉大なる自制の精神を發揮したことは世界平和上の一大偉業であり軍備全廢に向つて一步を進めたものである。此制限案による十ヶ年海軍休息期はこれが満期になつたら當然更新せらるべきであり、又陸軍制限や、補助艦潜水艦の制限が併せて議決せられなかつたのは遺憾であるけれども、陸軍の如きも各國自發的に制限する勢になつたから、世界の大勢はいよゝゝ各民族の協調融和に向つて歩を進めつゝあるのだといふ。

けれども、その華府會議を提唱したハーディング其人がアンナポリスの海軍大學校で學生に向つて海軍を不必要とする時代は未來永劫來るものではないと斷言して學生を激勵した事實がある。又彼の率ゆる共和黨は民主黨を破つて政權を取つたのであるが米國が戦後の不景氣に際し、海軍擴張に伴ふ國民の大負擔を軽減することが新大統領及び其與黨をして民心を繋がりしむる所以であることも事實である。ハーディングの海軍制限案はウィルソンの國際聯盟よりも、民族間の緊張を緩和し、世界の平和を維持する上に於て少くとも現在に於ては遙に有效なるものを認むるが併しハーディングの華府會議を以て單純なる平和愛好の動機からのみ出たものと見ることはできない。

(十)

併しながら、予輩は華府會議を以て單に米國自身の便宜からのみ起つたものと見るものではない。米國人の間に熱烈抑ふべからざる平和主義の磅礴してゐることも同時に事實である。米國は建國以來僅々百五十年の間に随分度々の戦争を行つた。

それにも拘らず、今回の大戦以前から中々熱心な平和主義者が輩出した。これは米國に於ける矛盾的事實である。前々大統領タフトの平和強制同盟の如きカーネギーの平和協會の如き國務卿ブライヤンや大學總長ジョンダン博士の平和主義宣傳等は其顯著なる實例である。それで最近の大戦に参加することによつて、世界から軍國主義と專制政治とを葬り是に由つて平和の黄金世界を産み出さうといふ目的が戦後に於て裏切られ、軍備競争が一向にやまないばかりか益々盛になり民族的反感が更に緩和せられないのを見て平和主義の米國人の間に之を阻止しようといふ熱望の起ることは自然であつた。特に感情的な米國婦人の間に其希望が燃え立つて、軍備制限を以て満足せず之を全廢せんことを唱へて之を大統領に迫るに至つたのである。即ち米國人のかゝる輿論が大統領の華府會議召集する一の有力なる要素であつたことは疑ない。

(十一)

之を要するに今日世界に於いては互に矛盾し背馳する二個の大潮流がある。一は世界の各民族を協

調融せしめて永遠の平和を確保せんとするもの他は此努力を無視し他民族を犠牲としても自己の属する民族の發展雄飛を圖らんとするものである。世界の大事を論ずるものは此二つの何れをも見逃がしてはならぬ。前者は既に久しく平和主義者の脳裡に描かれてゐたが其實勢力は微々たるものであり遂に世界大戦の大惨劇を防ぐことが出来なかつた。最近の華府會議に於て多少具體的表現を見たといへ、其理想の實現は前途尙遠である。後者即ち民族的反感は歴史的に養成せられたものであつて大戦の慘禍が之を廢滅せしめんとしても容易に抜き去ることの出来ない大勢力である。換言すれば民族の協調融和主義は實際上僅に其端を啓きたるのみで其實現は之を遠き將來に待つの外なき理想である。民族的反感は數千年來養成せられ、繼續し來り現今も又近き將來も尙其勢力を失はざる現實である。此理想と現實との奮闘が即ち世界の大事である。

理想に向つての努力は人類生存の目的であらねばならぬ。併しながら現實を忘れて理想に走らんとするのは、脚下の何物をも見ずして走る獸を追ふものの如く或は巨巖に躓つき、或は溝渠に墜ちて遂に獸を逸するに至るであらう。偏見を去つて世界を正視せよと云ふのは之が爲めである。(終り)

▲註 附録の三論文は村川博士が講演又は雑誌に發表せられるものの筆記又は要旨の抜萃で文檢受験者等には参考となるを思ひ掲載し譯である。文責悉く編者に在り。

第一回より 最近に至る 文檢西洋歴史科問題集

此問題集によつて史眼を充分に練磨して實力を涵養し置くべきこと、更に自作問題によつて總括・分解・應用等して尙一層史養を豊富にするがよい。

文検西洋歴史試験問題

第一回 (明治十八年)

- 一、古代文明と近世文明との異同如何
- 二、羅馬帝國滅亡後より第十世紀に至るまで 歐洲一般の形況如何
- 三、十字軍の結果を論じ併せて第十五世紀の智力上の進歩諸發明諸意見を記すべし
- 四、教法改革の原因如何
- 五、三十年戦役の顛末を記すべし
- 六、英國と佛國との國勢の沿革(主として王室、貴族、人民の關係に就て)を比較すべし

- 十二(瑞典王) (Charles XII) & ウェリントン (Wellington)
- ナポレオン第三 (Napoleon III) の事業を概記すべし

授業法

歴史を教授する最良の方法且つ特に本邦歴史を教授するに尤も注意すべき要點如何。例を擧げて之を説明せよ

第二回 (明治十九年)

- 一、上古の三大人種の事を記すべし
- 二、希臘の文明は羅馬に如何なる影響を及ぼしたるや
- 三、歐洲封建制度の由來及び其當時の社會に及ぼしたる利害如何
- 四、宗教改革は政治宗教文學技藝上に如何なる影響を及ぼしたるや
- 五、(イ)グスタフ・アドルフ (Gustavus Adolphus) イキノン (Mazarin) クロウエル (Cromwell) ヴーテル (Peter the Great) の事業を略叙すべし
- 六、(ロ)西班牙継承戦及び七年戦争の顛末を略叙すべし
- 七、第十九世紀の上半に於て歐洲諸國(プロシヤ、イタリー、オーストリー)に起りたる政治上の變動如何

- 一、フニキヤ人の重なる植民地を問ふ
- 二、歴山大王 (Alexander the Great) の版圖を問ふ
- 三、左の人々の重大なる事業を簡單に記せ
- (イ)コンスタンチン (Constantine)
- (ロ)カルビン (Calvin)
- (ハ)ウォレンスタイン (Wallenstein)
- (ニ)チルゴ (Turgot)
- (ホ)ビクトル エマンヌエル二世 (Victor Emmanuel II)
- 四、西羅馬帝國の季世諸人種移轉の狀況を簡單に記すべし
- 五、十字軍の結果を記せ

- 一、フニキヤ人の重なる植民地を問ふ
- 二、歴山大王 (Alexander the Great) の版圖を問ふ
- 三、左の人々の重大なる事業を簡單に記せ
- (イ)コンスタンチン (Constantine)
- (ロ)カルビン (Calvin)
- (ハ)ウォレンスタイン (Wallenstein)
- (ニ)チルゴ (Turgot)
- (ホ)ビクトル エマンヌエル二世 (Victor Emmanuel II)
- 四、西羅馬帝國の季世諸人種移轉の狀況を簡單に記すべし
- 五、十字軍の結果を記せ

Great,) の事業を略叙すべし

- (ロ)西班牙継承戦及び七年戦争の顛末を略叙すべし
- 六、第十九世紀の上半に於て歐洲諸國(プロシヤ、イタリー、オーストリー)に起りたる政治上の變動如何

授業法

歴史を教授するに於て如何なる事を以て主眼と爲すや又之を教授する方法如何

第三回 (明治二十年)

問題を缺く。

第四回 (明治廿一年)

- 一、宗教改革の起原及び沿革を記せ
- 二、雅典 (Athens) 制度の沿革を略述すべし
- 三、羅馬のオーガスタス時代文物の概略を記すべし
- 四、北米合衆國南北戦争の顛末を問ふ
- 五、左の人々は何時代何國にて如何なる大功業をなせしや
- 一、ヴィクトル エマンヌエル (Victor Emmanuel)
- 二、ジョン ソビエスキ (John Sobiesky)
- 三、ペートル大帝 (Peter the Great)

文検西洋歴史科問題集

- 六、第十五世紀の航海上発見の大略を述べよ
- 七、學術再興の状況を簡単に記せ
- 八、デズキト教會の組織及び其宗派傳播の區域如何
- 九、左の事柄を説明すべし

- (イ) オリンピア遊戯 (Olympic Game)
- (ロ) 三人政治 (Triumvirate)
- (ハ) ヘジラ紀元 (Hejira)
- (ニ) 贖罪制 (Indulgence)
- (ホ) 国力平均 (Balance of Power)

- 十、左の事柄の年代を明記すべし
- イ サラミスの戦
- ロ ザマの戦争
- ハ ベーダン條約
- ニ 西羅馬帝國の滅亡
- ホ 英國大憲章
- ヘ アーマダ艦隊の賊
- ト 三十年戦争
- チ 佛蘭西大革命の初

- リ ポーランドの滅亡
- ヌ ワーテルローの戦

第六回 (明治廿五年)

- 一、アレキサンドル大王死亡して中央亞細亞に如何なる變動を生じたるや
 - 二、露西亞が其地を南へ拓かんとするは何時頃より始まり如何なる國是に基けるものなりしや
 - 三、獨逸と神聖羅馬帝國との關係を述べ特に該關係を獨逸歴史に及ぼせる影響を論ぜよ
 - 四、英吉利と北米なる植民地十三州との争論は經濟上如何なる意味あるや
 - 五、ポーランドの第一分割を起したる事情は如何
 - 六、左の稱號を説明すべし
- エフオロス (Ephors)
 - マヨル、ドームス (Major domus)
 - ゴールデンブル (Golden bull)
 - クー、テター (Coup d'Etat)

第七回 (明治廿六年)

- 一、耶穌誕生の紀元を問ふ
 - 二、中世の末期に於ける英佛獨三國に起れる中央集權の現象に就て其異同の點を辨ぜよ
 - 三、シニレシヒホルスタインと普佛戦争とは如何なる關係ありや
 - 四、左に擧ぐる人物の事蹟を略述せよ
- 甲 ランケ (Ranke)
 - 乙 チュウブレイ (Dupleix)
 - 丙 クセノフォン (Xenophon)
 - 丁 ボリヌール (Bolivar)
 - 戊 チュルゴト (Turgot)
- 五、左の地名に關係ある顯著なる事蹟を問ふ
 - 甲 ソルフネリノ (Solferino)
 - 乙 キエニググレーン (Kenggrat)
 - 丙 ポンペイ (Pompeii)
 - 丁 リーグニッツ (Liegnitz)

第八回 (明治廿七年)

- 一、ギリシヤ史とローマ史との異同の點を辨ぜよ
 - 二、西ローマ分裂して現出したる邦國は何々なりや
 - 三、ブラジル國の始末を記せ
 - 四、左の地名に關係せる顯著なる歴史的事實を簡単に述べよ
- 甲 オルミユム (Olmütz)
 - 乙 キエフ (Kiev)
 - 丙 ノワラ (Novara)
 - 丁 ネーズビー (Naseby)
 - 戊 グラナダ (Granada)
- 五、左の人々の顯著なる事蹟を簡単に述べよ
 - 甲 ヤン・フス (Jan (John) Huss)
 - 乙 タキツス (Tacitus)
 - 丙 チュランヌ (Turenne)
 - 丁 サア・ヘンリー・ルーリマン (Sir Henry Rulinson)
 - 戊 ペトラルカ (Petrarcha)

巴 アレクサンデルフォンホルム (Alexander Von Humboldt)

第九回 (明治廿八年)

- 一、葡萄牙の衰へたる諸原因を問ふ
- 二、本世紀の初め保守的運動歐羅巴に盛んなりしは何に因て然るや

- 三、一八七八年ベルリン會議の結果を問ふ
- 四、左の地名に關聯せる歴史事實を簡明に述べよ
 - 甲 サラトガ (Saratoga)
 - 乙 アルロンガ (Alba Longa)
 - 丙 ナワリノ (Navarino)
 - 丁 アヤクチラ (Ayacucho)
 - 戊 キレメ (キレナイカ) (Kyrene Cyrenica)
 - 己 マグネシヤ (Magnesia)
- 五、左の人々の顯著なる事蹟を簡明に述べよ
 - 甲 ファンチイメン (Van Diemen)
 - 乙 フィヂアム (Fidias)

丙 セルワンテメ (Servantes)

丁 ハルン・アス・ラニム (Harun al Raschid)

戊 コルベール (Colbert)

己 テゲトホフ (Tegethoff)

第十回 (明治廿九年)

豫備試験

- 一、英國に於ける宗教改革の顛末を記せ
- 二、サラセン國の盛衰興亡を問ふ
- 三、左の人々の顯著なる事蹟を記せ

- 甲 ワレンスタイン (Wallenstein)
- 乙 グラツクス (Gracchus)
- 丙 ケプレル (Kepler)
- 丁 タレーラン (Talleyrand)
- 戊 ヘロドタス (Herodotus)
- 四、左の語を解釋せよ
 - 甲 エレクトトル (Electoral,)
 - 乙 デクダートル (Dictator)

丙 ライン同盟 (Confederation of the Rhine)

丁 プラグマチックサンクシオン (Pragmatic Sanction)

戊 ニックレジヤ (Ecclesia)

本試験

- 一、第四回十字軍の顛末を問ふ
- 二、現世紀に於ける英國選挙法改革の梗概を述べよ
- 三、左の人々の顯著なる事蹟を記せ
 - 甲 デイリウス (Darius)
 - 乙 ハワード (Howard)
 - 丙 サラヂン (Saladin)
 - 丁 ニスチニヌス (Justinianus)
 - 戊 コンテン (Cohen)
- 四、左の事項及び地名に關して知る所を述べよ。
 - 甲 活版の發明
 - 乙 フランクフルトアインマイン (Frankfurt on Main)
 - 丙 デルホイ (Delphoi)
 - 丁 マゼラン (Magellan) の世界周航の航路

第十一回 (明治卅年)

豫備試験

- 一、古エジプトの文明と古ギリシヤの文明との關係を問ふ
- 二、伊太利の統一と獨逸の統一との關係を問ふ
- 三、左の人々の顯著なる事蹟を述べよ

- 甲 モンロー (Monroe)
- 乙 ピタゴラス (Pythagoras)
- 丙 ボルタイン (Voltaire)
- 丁 アチラ (Attila)
- 戊 ダニエル・ウエヌスター (Daniel Webster)
- 四、左の事項を説明せよ
 - 甲 サウス・シー・アイランド (South Sea Bubble)
 - 乙 ハンザ (Hanseatic League)
 - 丙 インクイジション (Inquisition)
 - 丁 カルボナリー (Carbonari)
 - 戊 ニグノー (Huguenotes)

本試験

- 一、ワシントン会議の盛衰興亡を問ふ
- 二、ニール河口海戦の影響を述ぶ
- 三、ナポレオン三世とメキシコとの交際を記せ
- 四、左の人々の顯著なる事蹟を述ぶ
 - 甲 アルブケルナ (Albuquerque)
 - 乙 アイスキロム (Aschylus)
 - 丙 チチアン (Tijuan)
 - 丁 フィルモア (Filmore)
 - 戊 デ・ロイテル (De Ruyter)
 - 己 プリニウス (Plinius)
 - 庚 セン・シモン (San Simon)

第十二回 (明治廿一年)

豫備試験

- 一、北米合衆國南北戦争の原因
- 二、左の地に關する歴史上顯著なる事蹟
 - 甲 フィリッピ (Philippi)
 - 乙 カノッサ (Canossa)

- 丙 ヘースチングス (Hastings)
- 丁 ロスバウハ (Rosbach)
- 三、左の人々の事蹟
 - 甲 エパミノンダス (Epaminondas)
 - 乙 マリヤテレサ (Maria Theresia)
 - 丙 サークウオーターローリー (Sir Walter Raleigh)
 - 丁 ヴォーバン (Vanban)
- 四、左の名目の解釋
 - 甲 チェルゼター
 - 乙 獨逸關稅組合 (Customs Union)

第十三回 (明治廿二年)

- 一、歐洲封建制度の起源及び特質
- 二、南北アメリカに於て西班牙勢力の消長の要點
- 三、左の人々の事蹟
 - 甲 クライステネス (Kleisthenes)
 - 乙 グーテンベルグ (Gutenberg)
 - 丙 カノーワ (Canova)

第十四回 (明治廿三年)

- 一、神聖同盟 (Holy Alliance) の目的及び其影響
- 二、左の人々の事蹟
 - 甲 フォン・ホルンシュタット (Hon Hardenberg)
 - 乙 チオンニツクリッソ (John Nockhble)
 - 丙 ラムゼス二世 (Ramses II)
- 三、左の地に關する事蹟
 - 甲 カンネー (Canne)
 - 乙 ユトレヒト (Utrecht)
 - 丙 サドワ (Sadova)

第十五回 (明治廿四年)

- 一、中世歐洲に及ぼせるアラビア文化の影響の概略
- 二、一八三〇年白耳義和蘭分離の原因
- 三、左の人々の顯著なる事蹟
 - 甲 シモン (Simon)
 - 乙 アグリコラ (Agricola)
 - 丙 モリエール (Moliere)
 - 丁 ディスレーリ (Disraeli)
- 四、左の事項の説明
 - 甲 神の平和 (Truce of God)
 - 乙 ヘルリン命令 (Berlin Degree)

オマール (Omar Pasha)

ポムパール (Pomhal)

少ピット (Young Pitt)

本試験 (二時間)

- 一、クリミア戦争及び伊太利統一に関するナポレオン三世の政

- 一、カルル大帝の行政の概略
- 二、七年戦争の結果

- 二、ルーテル・ツィンダリ・カルビンの教義の異同及びその事

- 三、左の人々の事蹟
- イ ビタゴラス (Pythagoras)
- ロ コルテス (Cortez)

- 三、左の人々の事蹟

甲 アリストフアネス (Aristophanes)

乙 スチリコ (Stilicho)

丙 フイビテ (Fichte)

丁 スベロツン (Suvorov)

- 四、左の語の解釋

イ コミチヤトリフタ (Comitia Tributa)

ロ ヒューマニスト (Humanist)

女子の部 (一時間半)

- 一、中世騎士の特質

男子部の二、四、問は女子部にも提出された。

本試験 (二時間)

乙 ハムプス コルプス アクト (Habeas Corpus Act)

- 二、十八世紀に於ける革新文學の起源及び性質

- 四、左の語の解釋

甲 トリビュンヌ オフ セビプヌス (Tribuns of the Peoples)

Peoples)

乙 ハムプス コルプス アクト (Habeas Corpus Act)

- 三、左の人々の重なる事蹟

甲 トリボリヤヌス (Toribonians)

乙 タリツク (Turk)

丙 コルネーニ (Cornelle)

丁 スタイン (Stein)

- 四、左の地名に關する事蹟

甲 リウツェン (Lützen)

乙 ナバリノ (Navarino)

第十七回 (明治卅六年)

準備試験 (三時間)

- 一、アウグスツス時代のローマ憲法

- 二、ナポレオン一世に對するイギリスの政略

- 三、左の人々の顯著なる事蹟

A フレデリクススバロツサ (Friedrich Barbarossa)

B アレキサンデル オフ ペルマ (Alexander of Parma)

(or, Duke of Parma.)

- 四、左の地名に關係ある事蹟

レウクトラ (Leuctra)

グラナダ (Granada)

プレブナ (Plevna)

- 三、左の人々の顯著なる事蹟

女子部 (一、二問は同様)

- 一、ゼスイトの事業

- 二、十八世紀に於ける革新文學の起源及び性質

- 三、左の人々の事蹟

甲 アゲシオラス (Agesilaos II)

乙 ミケルアンヅェロ (Michelangelo)

丙 コルベール (Colbert)

丁 ダルウイン (Darwin)

女子の部

- 甲 アイマン (Aimann)
- 乙 シルレル (Shiller)

四、左の地に關する事蹟

- 〔サラミス (Salamis)〕
- センプバ (Sempuch)
- セダン (Sedan)

本試験 (二時間)

- 一、中世獨逸諸都府の有せし重なる權利
- 二、ウイン大會議に於ける列強の政策
- 三、ルイ十四世時代の佛蘭西文學の概況
- 四、左の人々の重なる事蹟

- 甲 リシポス (Lycippos)
- 乙 イモンセンヤ三世 (Innocent III)
- 丙 フルトン (Robert Fulton)
- 女子部 (二時間)
- 一、二、問は男子部と同じ
- 三、ギリシヤ建築の三式の區別
- 甲 コルネリア (Cornelia)

- 乙 スリー
- 丙 バイロン (Byron)

第十八回 (明治廿七年)

豫備試験 (一時間半)

- 一、ユリウス・ケザー (Julius Caesar) 征討時代のガリア (Gallia) の状態

- 二、第十九世紀中の露土の關係
- 三、左の地に於ける重なる事蹟
- 甲 シラクサ (Syracuse)
- 乙 トリエント (Trient)
- 丙 ヘルサイエ (Varsillae)

女子部

- 一、二、問男子に同じ
- 三、左の人々の事蹟
- 甲 アルフレッド大王 (Alfred the Great)
- 乙 ネストリウス (Nestorius)
- 丙 マクマホン (Mac Mahon)

本試験 (二時間)

- 一、ローマ教會が東ローマ帝國との關係を絶つに至りし理由
- 二、三十年戦争に對する佛蘭西の政策
- 三、左の語の説明

- 甲 アレオパゴス (Areopagos)
- 乙 エミル・アル・オトラ (Emir al Omra)
- 丙 キリレン (Ghibellines)
- 丁 チャチスト (Chartists)

四、左の人々の重なる事蹟

- 甲 エミリウス・パウルス (Aemilius Paulus)
- 乙 レンブランド (Rembrandt)
- 丙 アダムスミス (Adam Smith)
- 丁 フォン・ボイスト (Von Benst)

第十九回 (明治廿八年)

豫備試験 (一時間半)

- 一、スイス同盟がハプスブルグ家の管轄を脱せし願末
- 二、ナポレオン一世とプロシヤとの關係

三、左の語の解釋

- 甲 コミチヤケンツリマタ (Comitia Centuriata)
- 乙 選挙候 (Elector)
- 丙 モンロー主義 (Monroe Doctrine)
- 四、左の人々の事蹟
- 甲 クリステネス (Cleisthenes)
- 乙 ベリサリウス (Belisarius)
- 丙 セツプス (Tessens)

第二十回 (明治廿九年)

- 一、ウオルムスにて皇帝と法王と盟約せる條件 (Concordat at Worms)

- 二、西班牙王フィリップ三世の英、佛に對する政策
- 三、左の人々の重なる事蹟
- 甲 ディオクレチヤヌス (Diocletianus)
- 乙 コルベール (Colbert)
- 丙 パーマストン (Palmerston)
- 四、左の地名に關する事蹟

- 甲 プラテーニー (Platené)
- 乙 クストツア (Custozzie)
- 丙 プレブナ (Plevna)

本試験 (一時間半)

- 一、百年戦争の英、及び佛に及ぼせる影響
- 二、アメリカ合衆国の外交方針の變遷
- 三、左の人々の重なる事蹟

- 甲 「コンスタンチヌス大帝 (Constantine the Great)
- 乙 ミケランジェロ (Michelangelo)
- 丙 メヘメット・アリ (Mehemet Ali)

四、左の語の解説

- 甲 「ブルロン (Archon)
- 乙 ハンザ (Hansa)
- 丙 テスト・アクト (Test Act)

第二十一回 (明治四十年)

本試験 (二時間)

- 一、神聖ローマ帝國建設當時の獨逸の國情

- 二、レバントの海戦の原因及び結果
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 「アントルキダス (Antalkidas)
- 乙 英王リチャード一世 (Richard I)
- 丙 デ・ロイテル (De Ruyter)
- 丁 カルノー (Carnot)

四、左の語に關する事蹟

- 甲 「論辯學者 (Sophist)
- 乙 アルビジオン派 (Albigenses)
- 丙 宗教裁判所 (Inquisition)
- 丁 長期議會 (Long Parliament)

第二十二回 (明治四十一年)

- 一、デロス同盟の起源及び規約並に結果
- 二、ルクセンブルグ問題の顛末
- 三、左の人々の事蹟

甲 「シケロ (Cicero)

乙 「ドレーク (Drake)

丙 ミラボー (Mirabeau)

四、左の地の所在及び歴史上の事蹟

- 甲 アッカ (Akka)
- 乙 リッサ (Lissa)
- 丙 オルミッツ (Olmutz)

本試験

- 一、アメリカに於ける西國植民政策失敗の原因
- 二、一八五六年パリ和約の條件
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 「ミトラス王ミトラダテス六世 (Mithradates VI King of Pontus)
- 乙 英王ヘンリー二世 (Henry II King of England)
- 丙 リュベンス (Rubens)
- 丁 ビルヌーブ (Villeneuve)

四、左の地に關する事蹟

- 甲 「ミレトス (Miletos)
- 乙 ランニミュー (Rinnymede)
- 丙 ナント (Nantes)

丁 アブーキル (Aboukir)

第二十三回 (明治四十二年)

論備試験 (一時間半)

- 一、アウグスツスの改造したるローマ新政體の概要
- 二、無敵艦隊破滅が英、佛、蘭、西、に及ぼしたる影響
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 「ベリサリウス (Belisarius)
- 乙 フロシヤ王フレデリック・ウイリヤム二世 (Frederic William I)
- 丙 セシル ローズ (Cecil Rhodes)

四、左の地に關する事蹟

- 甲 「アルテミシオン (Artemision)
- 乙 マルタ (Malta)
- 丙 ガスタイン (Gastein)

本試験

- 一、エバミノンダスがスパルタの勢力を挫くために用ひたる政治的手段

二、一八四八年フランクフルトに開きたる國會の経過及び失敗の理由

三、左の人々の事蹟

甲 神聖ローマ皇帝ハノーリ三世 (Henry III)

乙 カイエルエツチンヌネロツヤ (Kaiserthum Parossa)

丙 ワットタイラー (Wat Tyler)

丁 シオアジウー公 (Chosseul)

四、左の地名に關する事蹟

甲 ヘースチングス (Hastings)

乙 カルロウイツツ (Carlowitz)

丙 ベーゼル (Bassel)

丁 サンビント (St. Vincent)

第廿四回 (明治四十三年)

豫備試験 (一時間半)

一、ペロポネソス戦争の初に於てアテネ、スパルタの勢力の比較並に其戦略

二、佛蘭西のアルゼリア戦略の梗概

丁 カウニッツ (Kannitz)

四、左の地に關する事蹟

甲 アゼンクール (Azincourt)

乙 グラフプロット (Gravelotte)

丙 カツベル (Kappel)

丁 サラトガ (Saratoga)

本試験 (二時間)

一、ハンザ同盟衰微の原因

二、北米獨立戦役と英・佛・蘭に及ぼせし影響

三、左の人々の事蹟

甲 ポリビウス (Polybius)

乙 ハンス・ザックスマ (Hans Sachs)

丙 フッゲル (Fugger)

丁 ヘルナドット (Bernadotte)

四、左の地に關する事蹟

甲 エーガテス諸島 (Aegatis)

乙 クルトロー (Courtrai)

丙 バヨヌヌ (Bayonne)

三、左の人々の事蹟

スチリコ (Stilicho)

ユリウス二世 (Julian II)

ローン (Loon)

四、左の地に關する事蹟

カルノー (Carnae)

ナンニー (Nancy)

プレトリア (Pretoria)

第廿五回 (明治四十四年)

豫備試験 (一時間半)

一、第一回ポエニ戦争の初めに於ける羅馬とカルタゴとの國情比較

二、ポーランド衰亡の原因

三、左の人々の重なる事蹟

甲 ネストリウス (Nestorius)

乙 ゼルバンテス (Servantes)

丙 セネカ (Seneca)

丁 ヘルゴランド (Helgoland)

第二十六回 (大正元年)

豫備試験

一、羅馬の僧正が諸僧正中に卓越したる地位を占むるに至れる事情

二、獨逸のアフリカに於ける植民政策

三、左の人々の事蹟

甲 サボナローラ (Savonarola)

乙 モンク (Monk)

丙 ラインニッツ (Leibnitz)

四、左の地に關する事蹟

甲 トランメンヌ (Trasimennus)

乙 リニツウエン (Lützen)

丙 リニエヴィーヌ (Innevilla)

本試験

一、羅馬の社會に於ける奴隷の影響

二、西班牙及び葡萄牙の植民政策失敗の原因

三、左の人々の事蹟

- 甲 ハムムラビ (Hammurabi)
- 乙 英王リチャード一世 (Richard I)
- 丙 チェムリネー (Dnouriez)
- 丁 ニエーブル (Niebuhr)

四、左の地に關する事蹟

- 甲 ジブラルタル (Gibraltar)
- 乙 ヴァレニス (Varennes)
- 丙 サンドリバー (Sand River)
- 丁 ボロヂノ (Borodino)

第廿七回 (大正二年)

豫備試験 (一時間半)

- 一、マホメット教のヨーロッパ文明に與へたる影響
- 二、三十年戦争の區分及び其の特徵
- 三、左の人々の事蹟
 - 甲 アグリッパ (Agrippa)
 - 乙 法王レオ一世 (Leo I)

丙 ムリッヨ (M. rillo)

丁 コブデン (Cobden)

四、左の地方に關する事蹟

- 甲 デケレア (Declea)
- 乙 ナンシー (Nancy)
- 丙 ウルム (Ulm)
- 丁 チャルleston (Charleston)

本試験 (二時間)

- 一、中古伊太利諸市が先づ發達せし理由
- 二、トルコ現憲法成立、其重要なる條項及び其の目的
- 三、左の人々の事蹟
 - 甲 ファビウス (Fabius)
 - 乙 クリソロラム (Chrysolorus)
 - 丙 スカンデルルク (Skanderbeg)
 - 丁 ヤゲロー (Jagello)
- 四、左の地に關する事蹟
 - 甲 ヴイアアッピヤ (Via Appia)
 - 乙 レンヌ (Rheims)

- 丙 ネルビンテン (Neerwinden)
- 丁 アルジェシラム (Algerins)

第廿八回 (大正三年)

- 一、中世フランスに王權の發達したる理由
- 二、波蘭分割と佛蘭西大革との相互影響
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 ピシストラッヌ (Pisistratus)
- 乙 アブルアッヌ (Abul Abbas)
- 丙 デギロー (Dierot)
- 丁 ピニス九世 (Pins IX)

四、左の地に關する事蹟

- 甲 シラクサ (Syracuse)
- 乙 トリエント (Trient)
- 丙 カノブ (Katzbuch)
- 丁 アルジエシラム (Algerins)

本試験 (二時間)

- 一、ローマ共和政治が武斷政治に變じたる徑路及び理由

- 二、第十八世紀に於ける歐洲五大強國の國是及び其發展
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 メケナス (Mecenas)
- 乙 ヒメネス (Himenes)
- 丙 ジエムソン (Janson)
- 丁 デニグスレン (Du Gueslin)

四、左の地に關する事蹟

- 甲 クルトレー (Courtrai)
- 乙 ウイスマビー (Wisby)
- 丙 レンヌ (Rheims)
- 丁 ミレットス (Miletus)

第廿九回 (大正四年)

- 一、アレクサンドル大王のヘルシヤ征服の影響
- 二、老ウイリヤム・ピットの佛國に對する政略と戦略
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 キヤクサレム (Cyaxares)
- 乙 バルボア (Balboa)

- 丙 ガウス (Gauss)
- 丁 ベゼーヌ (Bézine)

- 乙 バーゼル (Basel)
- 丙 リガ (Riga)
- 丁 アガービル (Agadir)

- 四、左の地に關する事蹟
- 甲 エウリメドン (Eurymedon)
- 乙 ワルトブルグ (Wartburg)
- 丙 ダムスー (Dunbar)
- 丁 リニー (Ligny)

- 一、十字軍の成功せしむる理由
- 二、第十五世紀末よりペートル大帝即位に至るまでのロシアの沿革

- 本試験 (二時間)
- 一、ハンザ同盟の衰微の原因
- 二、第十六世紀及び第十七世紀に於けるヨーロッパ大統一に關する諸種の企畫

- 三、左の人々の事蹟

- 三、左の人々の事蹟
- 甲 ポリビウス (Polybius)
- 乙 ロレンツォ・チ・メディチ (Lorenzo de' medici)
- 丙 ドンファン・ド・メリヤ (Don Juan Danstrin)
- 丁 メヘメット・アリ (Mehem et Ali)
- 四、左の地に關する事蹟
- 甲 ポンツス (Pontus)

- 甲 カイウス・グラッカス (Caius Gracchus)
- 乙 トスカネリ (Toscanelli)
- 丙 ルーヴオア (Louvois)
- 丁 ウォルポール (Walpole)
- 四、左の地に關する事蹟
- 甲 ハリス (Haly's)
- 乙 バーゼル (Basel)
- 丙 テクセル (Texel)
- 丁 バルセロナ (Barcelona)

本試験 (二時間)

- 三、左の人々の事蹟

- 一、中世に於ける商工組合の制度
- 二、プロシヤが一八〇五年に容易に打撃を蒙りたる理由
- 三、左の人々の事蹟
- 甲 セネカ (Seneca)
- 乙 グクレン (Guesclin)
- 丙 ベンヤン (Bunyan)
- 丁 スタニスラウス・レムチンキ (Stanislavus Lesczinski)
- 四、左の地名に關する事蹟
- 甲 ミケネ (Mykene)
- 乙 ヴェルダン (Verdun)
- 丙 フロンド (Fronde)
- 丁 サンドリバー (Sand River)

第三十一回 (大正六年)

- 甲 アルキメデス (Archimedes)
- 乙 エラスムス (Erasmus)
- 丙 佛王チャールズ八世 (Charles VIII)
- 丁 モンク (Monk)
- 四、左の地名に關する事蹟
- 甲 クナクサ (Cunaxa)
- 乙 ナルヴァ (Narva)
- 丙 リニー (Ligny)
- 丁 カルツーム (Khartum)

豫備試験 (二時間)

本試験 (二時間)

- 一、フィリップ二世 (Philip II) 死後の西班牙の國勢
- 二、一九〇八年より一九一四年までのバルカン半島諸國の歴史

- 一、上古に於ける地中海々上權の爭奪
- 二、宗教改革を促したる歐羅巴の氣運
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 ロージャー・ベーコン (Roger Bacon)
- 乙 ボツシニエー (Bossuet)
- 丙 グナイゼナウ (Gneissau)
- 丁 カンロベール (Canrobert)

四、左の地名に関する事蹟

- 甲 カプア (Cappua)
- 乙 ラロッシュネル (La Rochelle)
- 丙 モンナ (Molins)
- 丁 マグデブルグ (Magdeburg)

第三十二回 (大正七年)

豫備試験 (二時間)

- 一、ローマの兵制の變遷
- 二、第十六世紀前半の世界政策及び歐洲政局の梗概 (注意此時期以外に亘らざるを要す)
- 三、左の人々の事蹟
 - 甲 アグリッパ (Agrippa)
 - 乙 ブライアンテ (Brannante)
 - 丙 デュ・ケーム (Du Quenne)
 - 丁 アレクサンダー・マインツァンナチ (Alexander Ypsilanti)
- 四、左の名稱に関する事蹟
 - 甲 カンタベリー (Canterbury)

- 乙 ナンシー (Nancy)
- 丙 タイニ (Tulle)
- 丁 ウルトラモンタン (Ultramontan)

本試験 (二時間)

- 一、アレクサンダーヤ創建とエジプト史との關係
- 二、七年戦役と世界の大勢及び歐洲政局との關係
- 三、左の人々の事蹟
 - 甲 アルキメデス (Archimedes)
 - 乙 トーマス・モーン (Thomas More)
 - 丙 スバアロフ (Suvoroff)
 - 丁 ジェフアン・ケークス (Jefferson Davis)
- 四、左の地に關する事蹟
 - 甲 ダマスクス (Damascus)
 - 乙 バルセロナ (Barcelona)
 - 丙 アミアン (Amiens)
 - 丁 ブカレスト (Bucharest)

第三十三回 (大正八年)

本試験 (二時間)

- 一、ローマ元老院 (Senate) の勢力の消長
- 二、獨逸が廿年戦役後久しく國力恢復し得ざりし理由
- 三、左の人々の事蹟
 - 甲 ヒエロ (Hiero)
 - 乙 バンヤン (Bandyan)
 - 丙 ルーヴォワ (Louisvois)
- 四、左の名稱の説明
 - 甲 ブカレスト (Bucharest)
 - 乙 タンネンベルグ (Tannenbergl)
 - 丙 ブルボン親族契約 (Bourbon Family Compact)

豫備試験

- 一、上古希臘に於ける政體の變遷
- 二、第十九世紀の工業革命
- 三、左の人名地名に関する事蹟
 - 甲 カモート (Camote)
 - 乙 ネイ (Ney)
 - 丙 ニコモシヤ (Nicomedia)

丁 レヒフェキム (Leohfeld)

四、左の名稱の解釋

- 甲 フォルム (Forum)
- 乙 神の休戦 (Truce of God)
- 丙 穀物條例廢止同盟 (Anti-Grain Law League)
- 丁 文化戦争 (Kultur-Kampf)

第三十四回 (大正九年)

豫備試験 (二時間)

- 一、極盛時に於けるローマ教會の權力及び富力
- 二、一八七一年後フランスに對するビスマルクの政策
- 三、左の人々の事業
 - 甲 カイウス・グラッカス (Caius Gracchus)
 - 乙 カボヂストリヤス (Gobo d'Istria)
 - 丙 ゴルチャコフ (Gortschakof)
 - 丁 ボリヴァル (Bolivar)
- 四、左の地に關する史實
 - 甲 ケーローニア (Cheronea)

- 乙 ヨンボボリム (Kosovo Polje)
- 丙 ファシエダ (Fasolada)
- 丁 ラ・バンデー (La Vendée)

本試験 (二時間)

- 一、太古より文藝復興時代に至る西洋文化中心地の移動
- 二、土耳古の隆興及び衰頹の事情
- 三、(イ)左の地に起れる史實

- 甲 カルケミツン (Calchémish)
- 乙 タウロツゲン (Tauroggen)
- 丙 マルメー (Malmio)

(ロ) 古来バリーにて結ばれたる平和條約の年代及び當事國

四、左の人々の事蹟

- 甲 ルイス十四世 (Louis XIV)
- 乙 ローナー (Sir Walter Raleigh)
- 丙 アルント (Arndt)
- 丁 パスキエウイチ (Paskewich)

第三十五回 (大正十年)

豫備試験 (二時間)

- 一、古来アジア民族の歐洲に侵入せしものに就てそれを時代に述べよ

- 二、英國の領土擴張の由來
- 三、左の地に起れる重なる史實

- 甲 カルレー (Carthae)
- 乙 パヴィヤ (Pavia)
- 丙 ブレンハイム (Blenheim)
- 丁 マルタ (Malta)

四、左の人々の事蹟

- 甲 キモン (Cimon)
- 乙 トーマスアライナス (Thomas Aquinas)
- 丙 ニエール (Nial)
- 丁 ピウス七世 (Pius VII)

本試験 (二時間)

- 一、西洋史上に於ける世界統治思想の發現
- 二、アフリカに於ける獨逸及び伊太利の經略
- 三、左の地に關する史實

アクエーセクスチム (Aqua-Sextina)

- 乙 カルマル (Kalmar)
- 丙 ラロシエ (La Rochelle)
- 丁 モンチ (Mouche)

四、左の人々の事蹟

- 甲 アンチオクヌ三世 (Antiochus III)
- 乙 フレデリク スレインロツカ (Frederik Barbarossa)
- 丙 エラスムス (Erasmus)
- 丁 アークライト (Arkwright)

第卅六回 (大正十一年) 本年度より年二回施行豫定

豫備試験 (第一次) 二時間

- 一、第三世紀前後のローマ帝國の經濟狀態
- 二、十八世紀の英佛の對抗と其の歐洲國際關係に及ぼせる影響
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 マッケンゼン (Mackensen)
- 乙 ラッセル (John Russell)
- 丙 フランシス (Assisi, Francis)

四、左の地名に關する史實

- 甲 ヘレス (Heres de La Frontiers)
- 乙 ガスタイン (Gastoin)
- 丙 ヴエルダン (Verdun)

本試験 (二時間) 第二次

- 一、埃及・バビロニア・希臘の文化的關係
- 二、現今バルカン半島に據れる諸國獨立の事情
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 ピルス (Pyrrhos)
- 乙 カツスリー (Quaterough)
- 丙 アルフレッド大王 (Alfred the Great)
- 丁 コルテス (Cortez)

四、左の地の所在と史實

- 甲 ガリポリ半島 (Gallipoli Pen.)
- 乙 サライガ (Saragoza)
- 丙 地圖を描きてハンザ同盟に屬する主要都市五箇以上を記入せよ。

第三十七回 (大正十一年)

豫備試験(第二次)二時間

- 一、上古に於ける地中海制海權爭奪の沿革
- 二、封建制度が廣く歐洲に行はれし理由
- 三、(イ)左の年代に起りし重大なる史實

- 甲 一〇七七年
- 乙 一五七一年
- 丙 一九〇八年

(ロ)左の人々の事蹟

- 甲 オーガスタチン (Augustin)
- 乙 リュンベヌ (Rubens)
- 丙 フイリッ (Philippi)
- 乙 スロイヌ (Sloyns)
- 丙 ガジス (Gates)
- 丁 ハロコランニ島 (Heligoland)

四、左の地の所在及び史實

- 本試験(二時間)大正十一年後期
- 一、近古歐洲諸市の發達事情
 - 二、第十九世紀の半より現在までの英佛國際關係の變化
 - 三、左の人々の事蹟
- 甲 ジオン・ノットヌ (John Knox)
 - 乙 ハムデン (Hamden)
 - 丙 シヤムブレイン (Champlain)
 - 丁 シヤムポリオン (Champollion)
- 四、イ、左の地の所在及び史實
- 甲 ピーナ (Penna)
 - 乙 ルーヴレン (Louvain)
- ロ、左の名稱の解釋
- 甲 再洗禮派 (Anaptylists)
 - 乙 ミズリー交議 (Missouri Compromise)
- 口述問題
- 一、奧地利と洪牙利との史的關係を問ふ。
 - 二、西洋史教授上生徒の地理科によりて有する智識の利用

に關する用意を問ふ。

第三十八回 (大正十二年)

豫備試験(二時間)(第一次)

- 一、西洋上古の文化と現代文化との關係
- 二、歐羅巴方面の露西亞領土擴張の次第
- 三、左の人々の事蹟

- 甲 アッシェルムニン (Assurbanipal)
- 乙 フラマンチ (Brannante)
- 丙 マールボロ (Marlbough)
- 丁 マツチニ (Mazini)

四、左の地名に關する史實

- 甲 キノステファノ (Kynoskephale)
- 乙 ブレチニ (Breigny)
- 丙 ガエダ (Gaeta)
- 丁 ゲツチヌホータ (Getyshurg)

本試験(二時間)(第一次)

- 一、ローマの共和政時代の屬州統御の政治

文檢西洋歴史科問題集

第三十九回 (大正十二年)

豫備試験(二時間)(第二次)

- 一、アレクサドール大王歿後其の領土内に起りたる諸國の興亡
- 二、十六世紀初より十八世紀末に至る歐洲諸國海上權の推移。
- 三、左の人々の事蹟

- イ アルキメデス (Archimedes)

- ロ ヴェルキンゲトリウム (Veringetorix)
- ハ ダニエル ウェンメター (Daniel Webster)
- ニ シヤルンホルスト (Scharnhorst)

- ロ シノペ (Sinope)
- ハ クラカウ (Krakau)
- ニ キルク・キリガ (Kirk Kilissa or Kirk Kilise)

四、左の地の所在及び史實
イ [チ]ラキウム (Dyrhainum)

第四十回 (大正十三年度)

ロ アウグスブルグ (Augsburg)

兼備試験 (二時間) (第一次)

ハ モンチ (Monas)

ニ サンチヤゴ (Santiago)

一、西ゴート族の移住と其建國後の歴史

二、第十七世紀に於ける英佛國情の比較

本試験 (二時間) (第二次)

二、左の人々の事蹟

一、ケーザルのガリヤ征服の政治的及び文化的意義

イ [エ]ラトメテネ (Erasthenes)

二、ポルトガル人がアフリカ西海岸探検の動機

ロ アエチウス (Aetius)

三、左の人々の事蹟

ハ ジメカ (Ziska or Zizka)

(イ) [ア]ウレリヤヌス (Aurelianus)

ニ シワルツベルグ Schwarzenberg, (Charles philip)

(ロ) ナルゼス (Narses)

四、左の地の所在及び史實

(ク) ウィリアム ペイン (William Pain)

イ ヴェルケレ (Vercellale)

(ニ) フレシネー (Freycinet)

ロ カルマル (Kalmar)

四、左の地の所在及び史實

ハ プツシニツニス (Przemysl)

イ ナウクラチム (Nauratis)

ニ ツオルンドルン (Zorndorf)

本試験 (第二次) (二時間)

ロ 文化闘争 (Kulturkampf)

一、上古希臘の文化と東方文化との關係

四、左の地及び人に關する史實

二、一八七二年後世界大戦勃發までの露獨關係

イ [ヒ]メラ (Himera)

三、左の名稱の史的説明

ロ バルボア (Balbor)

(イ) ウォルムスの協約 (Concordat of Worms)

ハ ジェムソン (Jamson)

(ロ) ロラード (Lollards)

ニ ランニース (Runemede)

四、左の人名及び地名に關する史實

本試験 (第二次) (二時間)

イ ペトラルカ (Petrona)

一、キリスト教弘通前ローマ帝國內に行はれし宗教

ロ プロンビエール (Plombiere)

二、英蘭と愛蘭との史的關係

ハ ベツサラビム (Bessabis)

三、左の名稱の説明

ニ ボイスト (Bonst)

テルミドアン (Thermidorians)

ゼムストヴォ (Zemstovo)

第四十一回 (大正十三年度)

四、左の地名及び人名の史實

兼備試験 (第二次) (二時間)

甲 フイニヤジ (Hunyadi)

一、ゲルマニ民族中フランク王国の特に隆興せし理由

乙 シオモン (Chamont)

二、ポーランド衰亡の事情

丙 パルミラ (Palmyra)

三、左の史的名稱の説明をなせ

丁 ヴェルジヤナム (Velgenes)

イ 長期議會 (Long Parliament)

第四十二回 (大正十四年度)

準備試験(第一次)二時間

- 一、共和時代の羅馬とエジプトとの政治的及び經濟的關係
- 二、ヴァンダル民族の移動及び其建國後の歴史
- 三、一八一四年—一五年のウイン會議の重なる國際問題と列強の態度
- 四、左の地及び人に關する史實

- (イ) コセンツァ (Cosenza)
- (ロ) エフィアルテス (Ephialtes)
- (ク) グロチウス (Grotius De Groot)
- (ニ) ミンロンキ (Missolonghi)

本試験(二時間)

- 一、クレネズム文化の特色
- 二、中古フランスに於ける王權の發達
- 三、一九〇七年の英露協約
- 四、左の地及び人に關する史實

イ「ポリビウス Polybius. (Polybius)」

- ロ センラツク (Senlac.)
- ハ クラウゼウイツツ (Clawentitz)
- ニ ブレストリトウメツク (Brest Litovsk)

第四十三回 (大正十四年後期)

- 一、上古に於けるギリシヤ民族の分布の本質
- 二、ペートル大帝以前に於けるロシアの沿革
- 三、ナポレオン一世の獨逸に對する政策
- 四、左の地及び人に關する史實

- イ「コルキラ (Coreyra)」
- ロ ダランニール (D'Alembert.)
- ハ チニランヌ (Turenne.)
- ニ バラクラヴァ (Balaklava.)

本試験(二時間)

- 一、ローマ兵制の變遷
- 二、バルト海沿岸地方の沿革
- 三、一八五〇年オルミニツ協約締結の事情
- 四、左の地及び人に關する史實

- (イ) タナタサ (Tanagra.)
- (ロ) トーマス・ベケット (Thomas Becket.)
- (ク) クチニイナルヂ (Kutschuk Kainardji.)
- (ニ) シャトブリン (Chateaubriand.)

第四十四回 (大正十五年前期)

準備試験(二時間)

- 一、エーゲ文明 (Aegean civilization) の遺跡及び遺物。
- 二、東西兩ローマ帝國の對ゲルマニ政策
- 三、米國の太平洋方面發展の史實
- 四、左の地及び人に關する史實

- イ、ナンシー (Nancy)
- ロ、ハムデン (Hampton)
- ハ、ヤーン (Jahn)
- ニ、タウロゲン (Taurögen)

本試験(二時間)

- 一、ローマの海上權消長と海賊

文藝西洋歴史科問題集

二、オーストリア繼承戰役より七年戰役に至る間の歐洲國際關係

三、左の名稱の説明

- イ、リメス (Limes)
- ロ、マメルンツク (Mamulukes)
- 四、左の地及び人に關する史實
- 甲、モンテカシノ (Monte Cassino)
- 乙、ウルピヤヌス (Ulpianus)
- 丙、レクシントン (Lexington)
- 丁、フアーウル (Favre)

第四十四回の西洋史口述

- 一、左の事項に關する知識を審査し其の教授上の能力を考定す
- 甲、上古「ローマ」の政治機關
- 乙、ウエストフアリア條約

(委員 齋藤清太郎、同 村川 堅固)

第四十五回 大正十五年後期

豫備試験 (二時間)

- 一、ローマの文化に及ぼせる奴隷の影響
- 二、地中海に於けるノルマンの活躍
- 三、上古よりウィーン會議に至るネーデルラント地方の沿革
- 四、左の地及び人に關せる史實
 - イ、デケレヤ (Decelan)
 - ロ、スピン (Spin)
 - ハ、ストラボ (Strabo)
 - ニ、イッセルゴム (Iurbite)

本試験 (二時間)

- 一、西地中海に於けるギリシヤ民族勢力の消長
- 二、十字軍以後海上發見時代に至る歐亞間の商路
- 三、北米合衆國南北戦役以前に於ける國圖とメキシコとの關係
- 四、左の地及び人に關する史實
 - イ、エドワシム (Edusis)
 - ロ、ボリヴァス (Bolivar)
 - ハ、ボルドナウ (Bordaux)

ニ、アムント (Arndt)

(大正十五年十二月十四日施行)

【注意】

文檢西洋歴史科は昭和二年度より他の學科と共に年一回となり、豫備試験に合格したる者はその年及び翌年の本試験に受験し得ることとなつた。

【備考】

文檢合格後更に進みて西洋史を研究せんとする人に原書を紹介す。

前編の参考書

- Ashley: Ancient, Mediaeval and Modern Civilization.
- Botford: A Brief History of the World.
- Grant: European History.
- Seignobos: Hist. ire de la Civilization.
- Helmolt: Die Weltgeschichte.
- Robinson and Breasted: Ancient, Mediaeval and Modern Times.

本編の参考書

- Ranke: Weltgeschichte.
- Otton: Die Allgemeine Geschichte.
- Lavisse et Rambaud: Histoire general.
- Halphen et Signac: Penes et Civilization.
- Cambridge: Ancient History.
- " : Mediaeval History.
- " : Modern History.

この二編がその中心として、^{西洋史}國史問題として名高き Darlman Wartz の Quellenkunde や Wattenbach の Geschichtsquellen, 又 Herr の Quellenkunde zur Weltgeschichte を引いて下さる。英書では先年丸善から出た金子氏譯の西洋讀史指針がよすと思ひます。

昭和貳年五月廿七日印刷
昭和貳年五月參拾日發行



文
西
洋
史
研
究
者
の
爲
に
正
價
金
四
圓
八
拾
錢

著
者
山
上
德
信

發
行
者
阪
本
眞
三

印
刷
者
寺
井
藤
左
工
門

印
刷
所
株
式
會
社
秀
英
舍

發
行
所

東
京
市
神
田
區
表
神
保
町
七
番
地
振
替
貯
金
口
座
東
京
八
七
二
番

大
同
館
書
店

大 同 館 發 行 書 目 錄

岡部精一著 文部省檢定 受驗用 大日本歷史	菊 全 壹 冊 正價七圓五拾錢 送料卅貳錢	中村久四郎著 文部省檢定 受驗用 東洋通史	菊 全 壹 冊 正價五圓八拾錢 送料十八錢	小林 博著 文部省檢定 受驗用 西洋通史	上卷下卷 全貳冊 金拾壹圓六拾錢 送料十八錢	佐藤種治著 考 日本歷史精說	菊 全 壹 冊 正價六圓八拾錢 送料廿七錢	小林 博著 詳說 東洋歷史	上卷下卷 全貳冊 正價金九圓 送料卅貳錢	西臺來太郎著 受驗 中等東洋史詳解	四六判 全壹冊 正價金貳圓 送料十二錢	德重淺吉著 史眼 國史教授の原理實際 上卷	菊 全 壹 冊 正價參圓五拾錢 送料十八錢	德重淺吉著 史眼 國史教授の原理實際 下卷	菊 全 壹 冊 正價四圓五拾錢 送料十八錢	外三 名 養成 國史教授の原理實際 下卷	菊 全 壹 冊 正價貳圓八拾錢 送料十二錢	栗山周一著 最近 歷史教育の革新論	四六判 全壹冊 正價貳圓八拾錢 送料十二錢
--------------------------------	-----------------------------	--------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	---------------------------------	----------------------	-----------------------------	---------------------	-------------------------------	-------------------------	------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	--------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	-----------------------------	-------------------------	--------------------------------

本書御精讀者が研究上の御便宜を計り發行元大同館書店に於て直接前金相派へ御用命の御方に限り特に左の品々の御取次の勞を取計申可候 但し御用命は必ず前金にて定價送料相派へ御申込みの事

西洋史料用參考書一覽

大 綱 仲 改訂新體西洋歷史	二、三〇〇	一八〇	新見・森田 補習用 西洋歷史	一、七〇〇	一八〇
村川堅固 七訂中等西洋歷史	二、〇〇〇	一八〇	山上徳信 西洋歷史辭典	近 刊	三六〇
小林 博 文檢用 西洋通史 上卷	六、八〇〇	二七〇	村川堅固 中等西洋歷史地圖	一、五三〇	一八〇
小林 博 文檢用 西洋通史 下卷	八、〇〇〇	二七〇	齊藤清次郎 西洋歷史地圖	二、七〇〇	一八〇
龜井高孝 參考 西洋歷史	二、四〇〇	二七〇	三省堂編 西洋歷史地圖	一、二〇〇	一八〇
柴田親雄 國民西洋歷史	三、三〇〇	二七〇	事説 西洋歷史年表	一、〇〇〇	二二〇
箕作元八 西洋史講話	一〇、〇〇〇	三〇	歐洲最近世史	五、五〇〇	二七〇
村川・藤本 西洋歷史講話	七、〇〇〇	二七〇	今世界大海戰史	二、八〇〇	一八〇
妻木忠太 西洋歷史解釋	一、五〇〇	一五〇	文檢用 大日本歷史	七、五〇〇	三六〇
瀨川秀雄 西洋通史 三冊編	一五、〇〇〇	四五〇	文檢用 日本歷史精說	六、八〇〇	二七〇
杉山助之進 受參 西洋史	一、八〇〇	一〇	文檢用 東洋通史	五、八〇〇	二七〇
本多淺次郎 新式西洋史講義	四、五〇〇	二七〇	詳說東洋歷史 上卷	四、五〇〇	一八〇
阿力田金造 西洋史概説	六、〇〇〇	二七〇	改造世界地理精說	四、五〇〇	一八〇
			不安なる世界相	二、〇〇〇	一八〇
			米國と世界大戰	二、五〇〇	一八〇
			解り易き最近世界の趨勢	二、〇〇〇	一八〇

大 同 館 發 行 書 目 錄

稻毛 詛風著 ■ 教育者のための哲學 四六判 全壹册 正價貳圓五拾錢 送料十八錢

稻毛 詛風著 ■ 改訂 增補 オイケンの哲學 四六判 全壹册 正價壹圓六拾錢 送料十二錢

稻毛 詛風著 ■ 哲 學 入 門 四六判 全壹册 正價壹圓六拾錢 送料十二錢

大關増次郎著 ■ カント哲學批判 四六判 全壹册 正價金貳圓 送料十二錢

大關増次郎著 ■ カ ン ト 研 究 四六判 全壹册 正價七圓八拾錢 送料卅六錢

野村 隈畔著 ■ ベルタソンと現代思潮 四六判 全壹册 正價貳圓五拾錢 送料十二錢

吉田絃二郎著 ■ タゴールの哲學と文藝 四六判 全壹册 正價貳圓五拾錢 送料十八錢

吉田文英博士序 市川 一郎譯 ■ 教育の基礎たる哲學 四六判 全壹册 正價貳圓五拾錢 送料十八錢

志垣 寬氏 共著
新井順一郎 共著

（國史教授界の先驅を成すものは本書也）

現代を基調とせる
高一の國史教授

菊判最上製美本五百頁
金四圓五拾錢
送料十八錢

現代を基調とせる
高一の國史教授

菊判最上製美本六百頁
金四圓八拾錢
送料十八錢

高等小學校用
全部完成出來

七大特色

歴史が過去を學ぶもの也、といふ謬想と歴史研究の對象を單なる表面的史實におくの死灰的取扱とは速かに打破せねばならぬ。でなければ國史教授は遠からず破産の運命に逢着する。歴史は現代の「我」を學ぶための教科である。歴史研究の對象は單なる表面的史實では無くして史實の底を流るる國民精神そのものである。かうした見解からかうした信條の下に著者の犧牲的努力は表れて遂に本書を成したのである。今其特色を掲ぐれば
（一）教科書の抽象的敘述に對して一々引例的説明を試みると共に（二）著者の國史教授に對する見解を各章の關係教材毎に織込み（三）個々の従來の政治史的立場より脱して廣く經濟藝術各方面より史實の底を探り（四）古來の異說に對する歸納を善かにし（五）兒童の起しさうな疑問を想定して之を解説し（六）他教科との連絡を密接にし（七）地圖・年代表・略年表等の運用に新機軸を出してゐる。

足利十五代史 國史研究會 參圓八拾錢
送料十八錢

德川時代通史 井原儀近 刊

讀史餘論 新井白石 正價金貳圓
送料十八錢

詳說東洋歴史 卷上 小林博 博 四圓五拾錢
送料十八錢

詳說東洋歴史 卷下 小林博 博 四圓五拾錢
送料十八錢

平將門論 荒井康夫 正價金貳圓
送料十八錢

東京市神田區 大館發行所 表神保町七番地
東京市神田區 大館發行所 表神保町七番地

◇神戸親和高等女学校教授 西臺來太郎氏新著◇

最新 中等東洋史詳解

四六判最上製美本
全書冊箱入四百頁
正價金貳圓
送料十八錢

從來至難の學科と自せられた
東洋史を平易明瞭に且つ趣味
多く記憶に便なるやう叙述し
た未だ他は類書を見ない良書

世界の大事は急激に推移して我が國と最密接の關係ある支那及太平洋が世
界注視の中心となり東洋史は一段と緊要の度を増して來た。本書は東洋史
専攻家で而も中等教育に従事すること拾餘年、豊富なる學識と實地教育に
十分の經驗を有する著者が中等學生の爲に多大の苦心と努力を傾注して編
述されたものである。

内容 特色

(一)中等教科書に準據して史實を精選し徒に政治史に偏せず學藝文化通商に關する記事にも深く意を用ひ叙述豊然
文章最も平易明快で趣味全巻に横溢し、(二)小活字で本文の註釋敷衍及參考史話を載せて親切丁寧を極め、(三)表
解を附けて理解と記憶に至便ならしめ、(四)各章に適切なる復習考察問題を巻末に過去三十年間の各校入試専檢及
文檢問題を集録し盡く之に本文参照索引を附け、(五)更に最近数年間の各校入試問題模範解答を示してある

新井白石著 ● 讀史餘論 (七版)

四六判最上製美本
正價金貳圓
送料十八錢

本書は主として國史の外洋通商の變遷を本邦の歴史と對照し其の缺を補ひたるものである。されば從來世に現
れたる物の中に最も信頼するに足る書である。内容は原本の註釋評語の外新に校訂者が補語を附し以て異説を擧げ且つ註釋
を施し一々讀假名をつけ巻末に索引を添へて研究するの便を計れり。文檢歴、受験者及日本史研究者必讀の參考書である。

◇富山高等學校教授 霜島勇氣男氏新著◇

最新 高等國文國語詳解

四六判最上製美本
全書冊箱入六百餘頁
正價金
貳圓八拾錢
送料十八錢

文檢國語科受験者

中學校上級學生 必備書

高等諸學校學生

本書内容は國文篇と國語篇に分ち第一篇國文篇に於いては文檢國
語科の文部省指定書十一種について各時代順に排列し第一回より
最近に至るまでの豫備・本試験・口述に至るまでの問題の全部類
文散文約二百數十題を詳解し殊に語句の解釋は語原的に研究した
ものである。第二篇國語篇に於ては同上問題中の語句としてのみ

現はれたもの及指定書外の文中の重要語句及び最近十五ヶ年間の各官公立高等學校各種專門學校の該科問題の語句として現れ
たものを一々精細に解答し附録としては文檢第一回より最近に至るまでの設問の問題を國語學史・文學概論・文學史といふ條
に數項に分類し尙書中の重要語句數千を五十音順に排列して語句索引を施したものである、要するに國文で著はした解釋上の
根柢語句重要語句は殆んど網羅してあり本書一冊は一種の國語辭書としても恰好のものである、依て文檢受
験者及學生研究者に最も有益である。

石田吉貞著

● 國文法の解義と練習

四六判 (三版) 正價金貳圓
送料十八錢

小林好日著

● 新體國語法精說

最上製 (五版) 金貳圓八拾錢
送料十八錢

東京市神田區 大田行發館 東京市神田區 大田行發館

東京市神田區 大田行發館 東京市神田區 大田行發館

◇ 實際経験者が保證
し最も信頼し得る **大同館發行の文檢參考書**

(修身科教育科用書)

支那哲學史講話 宇野哲人著 送料十八錢	支那哲學の研究 宇野哲人著 送料十八錢	二程子の哲學 宇野哲人著 正價金貳圓 送料十二錢	四書講義 大學 宇野哲人著 貳圓參拾錢 送料十八錢	四書講義 中庸 宇野哲人著 貳圓參拾錢 送料十八錢	文檢用 論語 講義 教育學術會著 貳圓八拾錢 送料十八錢	文檢用 四書 研究 教育學術會著 正價金貳圓 送料十八錢	最新哲學辭典 渡部政盛著 五圓八拾錢 送料廿七錢	修身 主要學說辭典 甲斐一二著 參圓六拾錢 送料十八錢	文檢用 教育學 講義 教育學術會著 參圓八拾錢 送料十八錢	文檢用 教授學習法 講義 教育學術會著 正價金五圓 送料廿七錢	文檢用 心理學 講義 教育學術會著 四圓八拾錢 送料廿七錢	文檢用 論理學 講義 教育學術會著 參圓五拾錢 送料十八錢	文檢用 學校管理法 講義 教育學術會著 參圓五拾錢 送料廿七錢	文檢用 教育史 渡部政盛著 六圓八拾錢 送料廿七錢	文檢用 教育學 概論 渡部政盛著 五圓八拾錢 送料廿七錢	現代 改造教育思潮 批判 渡部政盛著 貳圓五拾錢 送料十二錢	最新 教育學說の叙述及批判 渡部政盛著 參圓八拾錢 送料十八錢	文檢用 修身科問題詳解 文檢研究會著 貳圓五拾錢 送料十八錢
------------------------	------------------------	--------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------

教育哲學の研究 稻毛詛風著 四圓五拾錢 送料十八錢	教育者のための哲學 稻毛詛風著 貳圓五拾錢 送料十八錢	創造本位の教育觀 稻毛詛風著 四圓八拾錢 送料廿七錢	現代教育の主潮 稻毛詛風著 貳圓八拾錢 送料十八錢	哲學教科書 稻毛詛風著 參圓八拾錢 送料十二錢	西洋哲學史講義 高橋敬視著 參圓八拾錢 送料十八錢	自 我 論 紀平正美著 貳圓參拾錢 送料十八錢	改訂人格の力 紀平正美著 壹圓八拾錢 送料十二錢	倫理學序論 金子幹太譯 貳圓五拾錢 送料十二錢	社會道徳論 一條忠衛著 參圓五拾錢 送料十八錢	教育の基礎たる哲學 市川一郎譯 貳圓五拾錢 送料十二錢	教育の基礎たる社會學 市川一郎譯 正價金貳圓 送料十二錢	國民道徳要領講義 三浦藤作著 貳圓八拾錢 送料十八錢	教育大意講義(教育史) 三浦藤作著 正價金參圓 送料十八錢	哲學の一斑 概念講義 市川一郎譯 五圓八拾錢 送料廿七錢	最新認識論 講義 市川一郎著 四圓八拾錢 送料廿七錢	最新認識論 講義 市川一郎著 壹圓五拾錢 送料十二錢	デューイ教育學說研究 永野芳夫著 正價金貳圓 送料十二錢	デューイ論理學說研究 永野芳夫著 正價金貳圓 送料十二錢	文檢用 新教育說撮要 甲斐一二著 正價金貳圓 送料十二錢	ベスタロツチ全集 小關愛村著 貳圓五拾錢 送料十八錢	人としてのベスタロツチ 大久保龍著 貳圓八拾錢 送料十八錢	ベルクソン現代教育 島 爲 男著 正價金貳圓 送料十二錢	ベルクソン現代思潮 野村隈畔著 貳圓五拾錢 送料十八錢
---------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	----------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------

(國語漢文科用書)

源氏物語活釋前篇 小林榮子著 四圓八拾錢 送料十八錢	源氏物語活釋後篇 小林榮子著 四圓八拾錢 送料十八錢	源氏物語大意 尾上登良子著 正價金參圓 送料十八錢	源氏物語新釋 龍澤良芳著 六圓八拾錢 送料卅六錢	太平記新釋 石田吉貞著 貳圓五拾錢 送料十八錢	新徒然草講義 石川 誠著 貳圓五拾錢 送料十八錢	萬葉集 <small>古今和歌集 新古今集</small> 選釋 石川 誠著 正價金參圓 送料十八錢	大鏡活 釋 小林榮子著 貳圓五拾錢 送料十八錢	伊勢物語新釋 小林榮子著 正價金貳圓 送料十八錢	古事記新釋 植松 安著 貳圓五拾錢 送料十八錢	紀記の歌の新釋 植松 安著 正價金貳圓 送料廿二錢	神皇正統記新釋 森山右一著 貳圓五拾錢 送料十八錢	竹取物語新釋 福永弘志著 壹圓參拾錢 送料十二錢	落窪物語新釋 吉村重徳著 貳圓八拾錢 送料十八錢	芭蕉翁の一生 小林一郎著 壹圓八拾錢 送料十八錢	芭蕉句集評釋 小林一郎著 貳圓八拾錢 送料十八錢	芭蕉の細道評釋 小林一郎著 壹圓五拾錢 送料十二錢	芭蕉七部集連句評釋 小林一郎著 參圓八拾錢 送料十八錢	近松世話淨瑠璃集成 小林榮子著 參圓八拾錢 送料十八錢	近松時代淨瑠璃集成 小林榮子著 五圓八拾錢 送料廿七錢	現代文學新選 石川 誠編 四圓八拾錢 送料十八錢	現代詩歌新選 石川 誠編 貳圓八拾錢 送料十八錢	現代田園文學新選 古屋利之著 正價金貳圓 送料十二錢
-------------------------------	-------------------------------	------------------------------	-----------------------------	----------------------------	-----------------------------	---	----------------------------	-----------------------------	----------------------------	------------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-------------------------------

假名の日本書紀 <small>上卷</small> 植松 安著 參圓五拾錢 送料十八錢	假名の日本書紀 <small>下卷</small> 植松 安著 參圓五拾錢 送料十八錢	新體國語法精說 小林好日著 貳圓八拾錢 送料十八錢	國文法の解義と練習 石田吉貞著 正價金貳圓 送料十八錢	高等國文國語詳解 霜鳥勇氣男著 正價金參圓 送料十八錢	國語科研究者の爲に 石川 誠著 貳圓八拾錢 送料十八錢	四書講義 大學 宇野哲人著 貳圓參拾錢 送料十八錢	四書講義 中庸 宇野哲人著 貳圓八拾錢 送料十八錢	文檢史記 選釋 森山右一著 參圓五拾錢 送料十八錢	文檢左傳 選釋 龍澤良芳著 參圓八拾錢 送料十八錢	精韓非子詳解 吉波彦作著 四圓八拾錢 送料廿七錢	漢文 <small>白文訓讀 復文作文 支那時文</small> 研究要訣 吉波彦作著 正價金參圓 送料十八錢	支那哲學史講話 宇野哲人著 貳圓八拾錢 送料十八錢	支那哲學の研究 宇野哲人著 貳圓八拾錢 送料十八錢	支那時文寶鑑 田井嘉藤次著 貳圓五拾錢 送料十八錢	文檢論語 解義 教育學術會著 貳圓八拾錢 送料十八錢	文檢四書 研究 教育學術會著 正價金貳圓 送料十二錢	唐詩選詳解 笠松彬雄著 近 刊	新撰漢文要義 高木 武著 壹圓八拾錢 送料十二錢	漢文科研究者の爲に 石川 誠著 正價金參圓 送料十八錢	國語漢文科問題詳解 龍澤良芳著 貳圓五拾錢 送料十二錢	和歌俳句自習讀本 森山右一著 正價金貳圓 送料十二錢	文章自習讀本 森山右一著 正價金貳圓 送料十二錢	童謠民謠詩傑作選集 福田正夫編 壹圓八拾錢 送料十二錢
--	--	------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	-----------------------------	--	------------------------------	------------------------------	------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-----------------	-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	-----------------------------	--------------------------------

（歴史日東史、西洋史料用書）

文檢用 大日本歴史 高橋與惣一著 七圓五拾錢 送料廿七錢	文檢用 東洋通史 中村久四郎 共著 五圓八拾錢 送料廿七錢	文檢用 西洋通史 上卷 小林 博著 六圓八拾錢 送料廿七錢	文檢用 西洋通史 下卷 小林 博著 四圓八拾錢 送料十八錢	讀史餘論 新井白石著 正價金貳圓 送料十二錢	古事記新釋 植松 安著 貳圓五拾錢 送料十八錢	註假名の日本書紀 上卷 植松 安著 參圓五拾錢 送料十八錢	註假名の日本書紀 下卷 植松 安著 參圓五拾錢 送料十八錢	史眼 國史教授原實際 上卷 德重淺吉著 參圓五拾錢 送料十八錢	史眼 國史教授原實際 下卷 德重淺吉著 參圓五拾錢 送料十八錢	養成 國史教授原實際 卷外 三名著 四圓八拾錢 送料十八錢	神皇正統記新釋 森山 右一著 貳圓五拾錢 送料十八錢
------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	----------------------------

現代を基 高一の國史教授 新井順一郎著 四圓五拾錢 送料廿七錢

現代を基 高二的國史教授 新井順一郎著 四圓八拾錢 送料廿七錢

文化史的 國史教授の要訣 栗山周一著 五圓八拾錢 送料十八錢

足利十五代史 國史研究會著 參圓八拾錢 送料十八錢

德川時代通史 井原 儀著 近 刊

詳説東洋歴史 上卷 小林 博著 四圓五拾錢 送料廿七錢

詳説東洋歴史 下卷 小林 博著 四圓五拾錢 送料廿七錢

參考 中等東洋史詳解 西臺來太郎著 正價金貳圓 送料十八錢

檢文 西洋史研究者の爲に 山上德信著 近 刊

最近 歷史教育本革新論 栗山周一著 貳圓八拾錢 送料十八錢

經濟的國史教授原義 德重淺吉著 正價金貳圓 送料十八錢

平將門論 荒井康夫著 正價金貳圓 送料十二錢

（地理科用參考書）

大日本地理精説 上卷 栗原寅次郎著 五圓八拾錢 送料廿七錢	大日本地理精説 下卷 栗原寅次郎著 五圓八拾錢 送料廿七錢	改造世界地理精説 栗原寅次郎著 五圓八拾錢 送料廿七錢	地理學通論 地文學部 三村信男著 六圓八拾錢 送料廿七錢	地理學通論 人文學部 三村信男著 六圓八拾錢 送料廿七錢	地理學 日本地理原論及概説 仲原善忠著 四圓八拾錢 送料廿七錢	郷土地理の研究 栗原寅次郎著 正價金貳圓 送料十八錢	日本産業地理精説 栗原寅次郎著 正價金四圓 送料十八錢	大日本國勢地理 栗原寅次郎著 參圓八拾錢 送料十八錢	地理教材有機的統合 栗原寅次郎著 四圓五拾錢 送料十八錢	地圖及略圖描法の理論と取扱法 神田精輝著 近 刊
-------------------------------	-------------------------------	-----------------------------	------------------------------	------------------------------	---------------------------------	----------------------------	-----------------------------	----------------------------	------------------------------	--------------------------

（研究入門の指針）

檢文 法制經濟問題詳解 吉本俊二著 正價金貳圓 送料十二錢	檢文 法制經濟問題詳解 吉本俊二著 壹圓八拾錢 送料十二錢	檢文 習字科研究者の爲に 笠井義夫著 貳圓五拾錢 送料十八錢	檢文 英語科研究者の爲に 伊東勇太郎著 正價金貳圓 送料十二錢	檢文 國語料研究者の爲に 石川 誠著 貳圓八拾錢 送料十八錢	檢文 漢文科研究者の爲に 石川 誠著 正價金參圓 送料十八錢	檢文 生理衛生研究者の爲に 鈴木忠庸著 貳圓八拾錢 送料十八錢	檢文 圖畫科研究者の爲に 小堺宇一著 貳圓五拾錢 送料十八錢	檢文 西洋史研究者の爲に 山上德信著 近 刊	檢文 各科受験者の手引 文檢研究會著 參圓五拾錢 送料十八錢	小檢より獨學研究者の爲に 山田 耕著 壹圓八拾錢 送料十二錢
-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	------------------------	--------------------------------	--------------------------------

大近松の時代浄瑠璃傑作選集出づ!!
小林榮子女史校訂 (紙數壹千三百餘頁箱入)

三版 近松時代浄瑠璃集成

近松遊いて既に二百餘年世に其の天才を讃嘆する者益々多きを加ふるは偶然にあらず就中其時代浄瑠璃は趣向の雄大なる描寫の鮮麗なる文章の雅建なる後世作者の到底企て及ばざる所なり。今其中に於て殊に傑作と稱すべきものを精選し用語には一々適當なる漢字を宛て故事には一々正確なる考證を加へ一般の趣味ある讀物としての按訂に精力を傾倒して本書を成せり。苟くも近松の眞面目を知らんとする人は必ず一本を手を手にせざるべからず。

次目容内	
雪女五枚羽子板	國姓爺合戰
最明寺殿百人上臈	本朝三國誌
百日曾我	孕常盤
釋迦如來誕生會	日本振袖始
吉野都女楠	雙生隅田川
姫山姥	傾城反魂香
信州川中島合戰	傾城酒吞童子
平家女護島	室町千疊敷
關八州繫馬	關八州繫馬

四六判最上製美本
正價金 五圓八拾錢
送料廿七錢

東京市神田區 大行發館同大 振替貯金口座 東京市神田區 表保町七番地

少年の健全なる學習的讀物

東京女子師範學校訓導 守屋貫秀・奈良島知堂共著 (好評嘖々)

好評三版 少年曾我物語

少年少女の趣味ある讀物・本書は東京市中の圖書館にて一番數多く讀まれしものとして推薦せられし名著今回増刷出來す。

金石の悲しみ…… 祈經の無念…… 祈親狙はる…… 奥野狩場の酒宴…… 河津侯野の相撲…… 赤澤山の露…… 兄弟も曾我…… 哀れな千鶴…… 頼朝の擧兵…… 鎌倉の朝業…… 雲居の雁…… 怨めしの使者…… 景季の命乞…… 由比ヶ濱邊…… 重忠の申請…… 母の狂喜…… 敵に對面…… 箱王の元服…… 母の勘氣…… 應病な京の小治郎…… 淺間狩…… 怪しの者…… 討取れ…… 哀れな鹿の聲…… 與一の立腹…… 和田酒宴と草摺引…… 小袖乞…… 勘氣赦免…… 懐しい故郷の森…… 矢立の杉…… 箱根にて暇乞…… 富士の狩場の勇ましき…… 無念の射損じ…… 敵を前に亂拍子…… 和田義盛…… 主従の袂別…… 嬉しや本望成就…… 十番斬…… 十郎祐成の討死…… 女姿の五郎丸…… 御前にての尋問…… 五郎時致が最後……

奈良島知堂氏新著 (我出版界唯一の書)

新刊發賣 少年忠臣藏

四十七士の義舉は物慾と享樂に酔つてゐた元祿時代の生んだ一の驚異であると共に我國民精神の眞平の姿であり麗はしい結晶である。然し之を傳ふるものが窮屈な考證を主とし又架空な捏造に墮しては家庭や學校の通俗讀物として誠に遺憾である。本書は新進の趣味講演家である著者が事實に即し然も洋々たる面白味も加へて一舉の願末義士の心事を平易に叙述したものである實實な興味ある讀物として敢て本書を兒童・父兄・教師各位に一讀をお薦めする。

四六判最上製美本
全壹册四百餘頁
正價金貳圓
送料十八錢

東京市神田區 大行發館同大 振替貯金口座 東京市神田區 表保町七番地

◇東京女子師範學校訓導 守屋貫秀・新井庄太郎共著◇

(好評 激賞 甚)

少年 九郎判官義経

【卷上】 四六判最上製美 頁 正價金 貳圓五拾錢 送料十八錢
【卷下】 四六判最上製美 頁 正價金 貳圓 送料十二錢

皆さんの好きな義経の事を最も詳しく書いた本が出来ました。優美な畫も澤山入れています。是非よきと義経の偉いこと義経の家来が真剣に主人の爲に働いて花々しく討死して行くところそれが又如何に悲壯なものであるかよく解るのであります。

【名古屋新聞】本書を評して曰く 青年少年の好讀物である興味本位に書かれた筆致は一讀巻を捲はざらしむ。そして面白さの裡に修養に資する所甚大なるものあり近來の好著である云々。乞ふべきの目次を一讀し頂きかし。

上巻内容目次

- 第一編 牛若丸の誕生 第二編 常盤御前 第三編 増尾十郎兼房 第四編 鞍馬山時代の牛若丸 第五編 奥州下り
- 第六編 義経と名乗る 第七編 義経と武藏坊辨慶 第八編 平清盛の死 第九編 源三位頼政 第十編 源頼朝 第十一編 源頼朝の御所 第十二編 源頼朝の御所 第十三編 源頼朝の御所 第十四編 源頼朝の御所 第十五編 源頼朝の御所
- 第十六編 源頼朝の御所 第十七編 源頼朝の御所 第十八編 源頼朝の御所 第十九編 源頼朝の御所 第二十編 源頼朝の御所
- 第二十一編 源頼朝の御所 第二十二編 源頼朝の御所 第二十三編 源頼朝の御所 第二十四編 源頼朝の御所 第二十五編 源頼朝の御所
- 第二十六編 源頼朝の御所 第二十七編 源頼朝の御所 第二十八編 源頼朝の御所 第二十九編 源頼朝の御所 第三十編 源頼朝の御所
- 第三十一編 源頼朝の御所 第三十二編 源頼朝の御所 第三十三編 源頼朝の御所 第三十四編 源頼朝の御所 第三十五編 源頼朝の御所
- 第三十六編 源頼朝の御所 第三十七編 源頼朝の御所 第三十八編 源頼朝の御所 第三十九編 源頼朝の御所 第四十編 源頼朝の御所
- 第四十一編 源頼朝の御所 第四十二編 源頼朝の御所 第四十三編 源頼朝の御所 第四十四編 源頼朝の御所 第四十五編 源頼朝の御所
- 第四十六編 源頼朝の御所 第四十七編 源頼朝の御所 第四十八編 源頼朝の御所 第四十九編 源頼朝の御所 第五十編 源頼朝の御所
- 第五十一編 源頼朝の御所 第五十二編 源頼朝の御所 第五十三編 源頼朝の御所 第五十四編 源頼朝の御所 第五十五編 源頼朝の御所
- 第五十六編 源頼朝の御所 第五十七編 源頼朝の御所 第五十八編 源頼朝の御所 第五十九編 源頼朝の御所 第六十編 源頼朝の御所
- 第六十一編 源頼朝の御所 第六十二編 源頼朝の御所 第六十三編 源頼朝の御所 第六十四編 源頼朝の御所 第六十五編 源頼朝の御所
- 第六十六編 源頼朝の御所 第六十七編 源頼朝の御所 第六十八編 源頼朝の御所 第六十九編 源頼朝の御所 第七十編 源頼朝の御所
- 第七十一編 源頼朝の御所 第七十二編 源頼朝の御所 第七十三編 源頼朝の御所 第七十四編 源頼朝の御所 第七十五編 源頼朝の御所
- 第七十六編 源頼朝の御所 第七十七編 源頼朝の御所 第七十八編 源頼朝の御所 第七十九編 源頼朝の御所 第八十編 源頼朝の御所
- 第八十一編 源頼朝の御所 第八十二編 源頼朝の御所 第八十三編 源頼朝の御所 第八十四編 源頼朝の御所 第八十五編 源頼朝の御所
- 第八十六編 源頼朝の御所 第八十七編 源頼朝の御所 第八十八編 源頼朝の御所 第八十九編 源頼朝の御所 第九十編 源頼朝の御所
- 第九十一編 源頼朝の御所 第九十二編 源頼朝の御所 第九十三編 源頼朝の御所 第九十四編 源頼朝の御所 第九十五編 源頼朝の御所
- 第九十六編 源頼朝の御所 第九十七編 源頼朝の御所 第九十八編 源頼朝の御所 第九十九編 源頼朝の御所 第一百編 源頼朝の御所

東京市神田區 大田同館發行 振替 貯金 口座 番 八七 八番

（教育思想研究必読の書）

◇市川一郎譯著◇

（四六判最上製本 全壹册四百頁 正價金貳圓 送料金十二錢）

四版 教育の基礎たる社會學

（文部省は勅令を以て社會教育課を新設す）

本書は米國碩學の近著に係る應用社會學の一なる教育的社會學に據りて社會學の主要なる原理と此原理に立脚する教育説の社會學的解釋とを講述せるものである。過去の因襲教育が心理學に依りて改造せられたるが如く、行き詰れる現代の教育は是非社會學に依りて改造されなければならぬ。實に本書の説く廣大にして根本的なる教育説は狹隘なる天地に閉居せる今日の教育を廣潤清朗なる曠野に誘導するものである、要國の士の必讀を要す。

永野芳夫著 ● デュローイ教育學説の研究 （四六判上製 三百餘頁） 正價金貳圓 送料十八錢

永野芳夫著 ● デュローイ論理學説の研究 （四六判上製 五百餘頁） 正價金貳圓 送料十八錢

（好評七版） 本書はデュローイ研究の第三巻として出来たものである第一巻の教育學説の研究は幸に世の好評をうけて第七版出来す、この論理學説の研究も同様に多くの讀者をもちたい。内容はデュローイの哲學、教育、倫理の諸説を一貫する眞髓に通ふ所の論理の形體であつて通常の形式論理ではない、それはいはゞ眞理の論または知識の論である。實驗論理學の名がその内容の幾分を語るであらう。論理Ⅰ眞理Ⅱに興味をもつ人、デュローイの思想の眞髓にふれたい人に讀まれたい

（最新刊書）

◇稻毛詛風著 （大好評）

教育哲學の研究

（菊判最上製本 五百參拾頁 金四圓五拾錢 送料廿七錢）

本書の内容は一方内外の代表的教育哲學書を忠實に紹介し嚴密に批判すると共に他方著者自身の教育哲學觀を系統的に叙述したものであるが故に此の巻によつて教育哲學の一斑と著者の見解とを理會する事が出来る。教育と哲學との關係について疑念をく懐者、哲學を教育上に活用せんとする者、教育哲學を研究せんとする者乃至眞に有爲な教育者たらんとする者は必ず一本を繰りて此の新學術の醍醐味を味はうべきである。

◇渡部政盛著 （拾參版）

現 改造的教育思潮批判

（四六判最上製 美本四百餘頁 金貳圓五拾錢 送料十八錢）

本書は滿天下の教育者の爲めに最近の教育思潮を詳細に紹介し加ふるに著者一流の深刻なる批判を以てしたるものである故に學者

は本書に依りて現今改造的教育思潮の全體を知悉し得べく又同時にそれらの新思想の價值如何をも究めることが出来るのである。文檢受験者及教育學研究者は本書を一讀せば最近時の教育思潮を會得して新時代の教育者たるの名と實とを完備し得べし。

◇稻毛詛風著 （拾五版）

教育者のための哲學

（四六判最上製本 全壹册五百頁 金貳圓五拾錢 送料十八錢）

教育者としての光と力と 凡そ教育者に廣大なる理想と確乎たる信念を與ふるものは哲學也。然るに遺憾なる哉。我が國の哲學者教育學者にしてこの點に努力するもの皆無に近し幸に多年哲學と教育學とを兼修し「教育哲學」の建設を以て一大使命とする著者はこの現状を痛歎するの餘り本書を公にして（一）哲學が特に教育者に必要なる所以と（二）教育者に必要なる哲學の概念と（三）教育哲學の意義及價值とを的確精細に闡明することに依りて上記の缺陷を根本的に匡救せんとす。教育者としての光と力とを獲んとする士は來れ。

力とを獲んとする士は來れ。

東京市神田區 表神保町七番地 大田發行所 振替 東京 八七七番 貯金 口座

文檢教科受驗者必讀の書

渡部政盛氏著

改訂版 集說 教育學概論

正價全五圓八拾錢

本書内容は(一)歴史批判(二)事實批判(三)現代思潮批判(四)目的々本質的批判に立脚して最良最善の教育原理を闡明し、實際教育に對して最も根本的なる最も最新なる規範を提供したのである。教育一般を研究の對象として科學に立脚しなから哲學を忘れず、教育の意義・教育學の概念を諸方面から縱横に考察論明し特に理論的教育學の新體系を確立し教育の基礎理論として詳細なる被教育者論及社會人生論を試み目的概念としての文化的人格の形式内容を精説し教授訓練の二方便説に隨つて方法論を二分的に説述し最後に独自の見地から教育動力論(教育者論)を試み機關論をなした。系統的である。教育學研究者文檢受驗者學校圖書館の必備及清鑑を俟つ所以なり。

渡部政盛氏著

編判最上美本 全壹册六百頁 正價金參圓八拾錢 送料廿七錢

最近教育學說の叙述及批判

(好評拾壹版)

本書は最近教育の學說並に主潮・副潮・細潮を質本的に叙述し之を深刻に論じ徹底的に批判したるものなり。故に文檢受驗者は勿論教育學研究者にして最近の教育思潮を知らんとすべし。本書を讀め、第一章第二章は教育思潮其のもの、研究なり而も斯かる研究は本邦は無論のこと歐米諸國にも未だ發見なり。蓋し著者一流の教育哲學の一部と言ふべきものなり。最後結論の國家的人格的教育論は著者の根本教育思想にして同時に亦福垣先生の第一思想なり。これ福垣先生の究竟思想として又現今教育思潮の歸趨として見出すべからざる文字なり要するに本書は尅大にして混沌たる現今教育思潮の最も正確にして多面的たる一大縮圖なり。

東京市神田區大田町七番地 大田發行所 東京貯金口番七

教育研究職者必備の讀書

甲斐一二氏新著

新刊 修身主要學說辭典

正價金參圓六拾錢

本書は修身・教育兩科の研究に志す人が研鑽の傍、所要題目の要點を敏捷に把握せらるゝの便に供せんが爲めに編纂したるものなり。故に本記載題目は修身及教育の各分科(教育史・心理學・倫理學・教授法・管理法等)は勿論其他特に關係深く重要と認められるものは哲學・社會學・文藝等の各方面にも及びたり。本書は浩瀚なる普通大辭書と其趣きを異にし凡ての題目を網羅し盡すといふ主義にはあらで兩科の研究上最も必要と認めらるる題目のみに止め特に最近の思潮に鑑み努めて新題目を過せざらんことに努力したり。索引法としては普通辭典の形式に従ひ五十音題に排列したりと雖も檢索の便宜上字音假名遣法を用ひ使用者の便宜を計れり。文檢受驗者小學校教員師範學生卒教員必讀の良書である。

甲斐一二氏新著

(文檢受驗者必讀の要書)

新刊 文檢 新教育說撮要

正價金貳圓

本書は最近東西新教育說の要點を簡明に叙述し説明し批判せる文檢受驗者必讀の良參考書にして第一篇に於ては主として西洋第十九世紀後半以後に於ける新教育說を叙述し第二篇に於ては最近我が國に於て唱導せられたる諸家の新學說を紹介し第三篇に於ては専ら教授及び訓練上に於ける新教育說を説明し第四篇に於ては重に學校設置上に關する新說を解明せり。常に文檢受驗者のみならず教育上の新學說の研究に志ある人に取りては實に唯一無二の好資料たるべし。

東京市神田區大田町七番地 大田發行所 東京貯金口番七

（著名の讀必者究研想思學哲）

市川一郎氏譯著（大好評初學者隨一の入門書）

哲學概論

著者最上美本
紙張六百餘頁
正價金
四圓八拾錢
送料廿七錢

（東亞之光批譯） 著者は先に「教育の基礎なる哲學」を著して頗る好評を博した人である本書も著者平明で高
る書は現今では本書を於いて他に求め難い、然も更に一層認識論を讀者をして理會し易からしむ
士の名著及びローシャ博士の著書より抜萃補註してをる。眞面目に哲學を攻究せんとする初學者に取ては無く
ならぬ書である最後の頁まで讀了せずには居られぬ書である而かも其の間讀者をして哲學研究の生命ともいふべき自
ら思辨し反省せしむる即ち哲學せしむる良書である。初學者のみならず一般の人にも頗る興味を涌かしむる書として
是非おすゝめする。

文學博士波多野精一序・野村隈畔氏著（定評ある名著忍八版）

ベルグソンと現代思潮（四六判上裝） 金貳圓五拾錢 送料十二錢

本書はベルグソンと現代思潮との關係を論じて、その中心として、現代の哲學及生活の梗概を述べたものである。ベルグソンが「時間」を論じて、その中心として、現代の哲學及生活の梗概を述べたものである。ベルグソンが「時間」を論じて、その中心として、現代の哲學及生活の梗概を述べたものである。

稻毛詛風著（五版）

哲學入門

（四六判最上裝美本） 全壹圓六拾錢 送料十二錢
哲學の世紀が来た。何人と雖も哲學の理解なしには意義ある生活は不可能な時代が来た。然るに我國には萬人の要求に應ずべき哲學書がない。著者これを遺憾として、深遠複雑な哲學を極めて簡明に叙述し何人も一讀直ちに哲學の一般を理解し得るやうにしたのが本書である。今や多年渴望せられた絶好の哲學入門が現れた。將來哲學を研究せんとする士は勿論現代人として意義ある生活を営まんとする士は學つて本書に就け。

高橋敬視著（最新刊）

西洋哲學史講義

（著者最上裝美本） 全壹圓八拾錢 送料十八錢
古代哲學から最近現代までの西洋哲學史を系統的に簡潔平明を旨として、初學者にも容易に理解出来る様に叙述したのが本書である。一冊哲學を知るには、西洋哲學史を讀まなければならぬ。如何なる哲學史でも、それだけの事柄に就いて、理解出来るものではない。讀者は幸に本書による時は容易に一冊の思想の源泉を汲み取ることが出来るであらう。

大關増次郎譯著（五版）

カント哲學批判

（四六判最上裝美本） 全壹圓貳圓 送料十二錢
哲學する時代は来た。思惟の思惟なくんば一切は其の原理を失ひ人生は其根柢なきに苦しまねばならぬ。哲學に於けるコペニクス的轉動はこれをカントに見る。カントの哲學の洗練を受けずして眞に哲學する事が可能であらうか。カントより新理想主義へ新理想主義からヘーゲルへの道を辿らうとする者は先づ近世哲學の權威フイツシャーの「カント哲學批判」を傾聴するの有意義なるは敢て贅言を要しない。これ眞摯なる思惟に生きんとする士に本書をすゝむる所以なり。

大關増次郎著（三版）

カント研究

（著者最上裝美本） 全七圓八拾錢 送料卅六錢
大坂毎日新聞批評：「批判哲學の創始者として近世哲學史上に互木の如く輝く立つカントの哲學の體系をその思惟開展の順序に従ひ考察し、或はカントを誤解しないものは無いのであるから、近世思想を統括するものは必ずカントを以てすべきか、のばらなければならぬ。本書はそのカントに對するよき手引書である。哲學研究者必讀の力を入つた著述である。」

東京市神田區 大田同館發行 表神保町七番地 振替東京八七〇番口 座番

Handwritten notes at the top of the page, including names and dates.

Vertical handwritten notes on the left margin of the page.

◇石田吉貞氏著 (新刊)

太平記新釋

(四六判最上美本 全冊五百餘頁 正價金貳圓五拾錢送料十八錢)
戰記の基礎として平家物語と共に國文學研究上缺くことを得ない太平記はその餘りに大部なものと註釋の書具はならないとから一般にはやゝ近づき難いものとなつてゐる。本書は太平記中重要な箇所を悉く抜いてこれに詳細な解釋を施したものでこれに依りて内容上からも語句文章の上からも太平記全體を捉へ得るやうにと期したものである。加之卷首の太平記解説は纏まつた書史的知識を與へるであらう。文檢國漢文科受験者の必讀書たるに勿論一般學生及國文研究者の嗜好の參考書である。

◇新井白石氏著 (七版)

讀史餘論

(四六判最上美本 全冊四百餘頁 正價金貳圓送料十八錢)
本書は主として白石の外孫藤清彦の原寫本に據り其他諸種の異本を参照して其の缺を補ひたるものである。從來世に現れたる物の中

にて最も信頼するに足る書である内容は原本の註語評語の外新に校訂者が補語を附し以て異説を擧げ且つ註釋を施し一々讀假名をつけ卷末に索引を添へて研究者の便を計れり。頼山陽の日本外史も其の論文は白石の本書に負ふ所頗る多しと云ふ。文檢日本歴史研究に必讀の參考書なり。

◇三浦藤作氏著 (最新刊)

國民道德要領講義

(菊判最上美本 全冊三百頁 正價金貳圓八拾錢送料十八錢)

◇三浦藤作氏著 (姉妹篇完成)

教育大意講義 附 教育史

(菊判最上美本 全冊二百餘頁 正價金參圓送料十八錢)

「教育大意」「國民道德要領」を最も系統的に最も順序正しく最も明瞭に最も平易に叙述したるものである。類書世に多しと雖も初學者をして一讀其の要諦を會得せしめ重要問題に向つて正しき解釋を與へることと本書の如きは一もなし。起稿後推敲に推敲を重ね新訂して出せしもの。獨學用の研究書として文檢受験者必讀の良書たるは勿論各學校の教科書として優秀比類なきものと信ず。

◇福永弘志著 (最新刊)

竹取物語新釋

(四六判最上美本 全冊二百頁 全圖參拾錢 送料十二錢)
本書は竹の中から生れ出た「かぐや姫」に據る戀物語である。書中燕の子安貝・羽衣の條に至つてはその筆致讀者を愕然として妙麗に詳はしむ。小説の源泉を求め人・童話に親しむ人・上代の世相を知りたき人・文學に志す人等すべての人の必ず一度は味はねばならぬ古文の名著である。本書は原文に詳解を附し純口語譯を添へしものである。

◇龍澤良芳著 (三版)

文檢國語漢文科問題詳解

(四六判最上美本 全冊五百頁 全圖五拾錢 送料十二錢)
本書は文檢國漢文科の最近十數ヶ年の演習・本試験の問題を解答したものである。内容は著者が自己の経験より見て問題を解答するに附ても成文要點をつかむに苦心し前にして要を得たつもりである。文檢問題も大正九年以後は従前と方針を異にして居るから研究者は是非一應本書に依りて練習して置くのが合格の要訣であると信ず。

◇石田吉貞著 (最新刊)

國文法の解義と練習

(四六判最上美本 全冊四百餘頁 正價金貳圓 送料十二錢)

「文檢專檢必讀書」『少き記憶と多き練習』は文法研究の最要事である。要事で時に受験者の唯一のモットでなければならぬ。應用問題のみ出る文法に練習問題を多くした参考書の出なかつたのは確かに一大缺陷であつた。本書はこの見地から解義は穩健と簡潔と獨習者に對する親切とを主として練習題は出来るだけ多くして一々解答をつけ特に文章解剖等に力を用ひ附録として各種入學試験問題專檢問題第一回以來最近までの文檢文法問題等をそへたものである。異説の多い各種文法書の間には迷はずに實力を養はうとする人に必讀をすゝめる。

◇高木武著 (四版)

受檢新撰漢文要義

(四六判最上美本 全冊三百頁 全圖八拾錢 送料十二錢)

萬朝批評漢文全體の事を親切に解きあれば學徒の利便からざる可し必ずや學生諸君が机上の一大寶庫たるべし。

小林 博著	文部省檢定 受驗用	西洋通史 上卷	菊判上製 六百餘頁 (三版)	正價六圓八拾錢 送料廿七錢
小林 博著	文部省檢定 受驗用	西洋通史 下卷	菊判上製 四百餘頁 (三版)	正價四圓八拾錢 送料廿七錢
小林 博著		詳說東洋歷史 上卷	菊判上製 五百餘頁 (新刊)	正價四圓五拾錢 送料廿七錢
小林 博著		詳說東洋歷史 下卷	菊判上製 五百餘頁 (新刊)	正價四圓五拾錢 送料廿四錢
佐藤種治著		參考日本歷史精說	菊判上製 七百頁 (新刊)	正價五圓八拾錢 送料廿七錢
小林榮子著		伊勢物語活釋	四六上製 四百餘頁 (新刊)	正價金貳圓 送料十二錢
龍澤良芳著	文檢 受驗用	源氏物語新釋	菊判上製 八百餘頁 (再版)	正價六圓八拾錢 送料廿七錢
吉波彥作著		漢文白文訓讀復文 研究要訣	四六上製 五百餘頁 (三版)	正價金參圓 送料十八錢
吉波彥作著		韓非子詳解	菊判上製 六百餘頁 (再版)	正價四圓八拾錢 送料十八錢
森山右一著	文檢 受驗用	史記選釋	菊判上製 四百餘頁 (新刊)	正價參圓五拾錢 送料十八錢
田井嘉藤次著		最近支那時文寶鑑	四六上製 五百餘頁 (新刊)	正價貳圓五拾錢 送料十八錢

東京市神保町七番地 大田發行所

栗原寅治郎著		教材 大日本地理精說 上卷	菊判上製 五百餘頁 (九版)	正價五圓八拾錢 送料十八錢
栗原寅治郎著		教材 大日本地理精說 下卷	菊判上製 五百餘頁 (九版)	正價五圓八拾錢 送料十八錢
栗原寅治郎著		教材 改造世界地理精說	菊判上製 五百餘頁 (拾貳版)	正價五圓八拾錢 送料十八錢
栗原寅治郎著		鄉土地理の研究	四六上製 四百頁 (六版)	正價金貳圓 送料十八錢
神田精輝著		地圖及略圖描法 其理論と取扱法	菊判上製 六百餘頁 (新刊)	正價五圓八拾錢 送料十八錢
仲原善忠著	理論 探究	日本地理原論及細說	菊判上製 五百餘頁 (三版)	正價四圓八拾錢 送料十八錢
栗原寅治郎著		大日本國勢地理	菊判上製 五百餘頁 (三版)	正價參圓八拾錢 送料十八錢
栗原寅治郎著	學習 指導	地理教材有機的統合	菊判上製 五百餘頁 (新刊)	正價四圓五拾錢 送料十八錢
栗原寅治郎著	學習 指導	地理教材有機的統合	菊判上製 五百餘頁 (新刊)	正價五圓五拾錢 送料十八錢
德重淺吉著 外三名	史眼 養成	國史教授の原理實際	第五學年 用上卷 (拾貳版)	正價參圓五拾錢 送料十八錢
德重淺吉著 外三名	史眼 養成	國史教授の原理實際	第六學年 用下卷 (拾貳版)	正價四圓五拾錢 送料十八錢

東京市神保町七番地 大田發行所

◇北帝國大學教授 理學博士 林鶴一先生序 宗 敬氏新著

大好評 受驗 補習 幾何學自發的學方

(四六判最上製美本五百餘頁) (上卷)正價金貳圓五拾錢 送料十八錢
 (四六判最上製美本三百餘頁) (下卷)正價金貳圓五拾錢 送料十二錢

高等學校 受驗者必讀

あッ!出来たッ!!! 出来たッ!!!
 と叫んで見たい様な躍つて見たい様な数学思想の自由を尊重した自發的
 學び方をお奨めします。
 あッ!分つたッ!!! 分つたッ!!!
 と叫んで種々の法則を見出して行く様な科學的精神の啓發を高調した自
 發的學び方をお奨めします。
 あッ!出たッ!!! 出たッ!!!
 と試験問題に臨んだ瞬間にひらめく強き心の囁きは快力亂麻よく簡單明
 瞭なる答案となつて現はるゝ自發的學び方をお奨めします。

文檢教數科 受驗者必讀

宗 敬著 ● 分類的算術解法の研究 (四六判上製) 金壹圓六拾錢 送料十二錢

(本書の特色は) (一) 算術問題 等は最近の入學試験問題並に著者の特問題から標準となるべき目抜の問題を精選
 したる點と (二) 問題の考へ方解き方を分類的に一々例示し特に圖解の仕方に主力を注ぎたる點と (三) 如何なる試験問題でも面
 白くすましく解ける様な自發的學び方の抽品が各頁に隨知として現はれて居る點等である入學試験者文檢受驗者必讀の良書なり

東京市神田區大田路 大田同館發行 振替 東京 八番 金七 口七 座番

554
167

